十六ノ十九
あまつ山乃こなたもかくにとあけんのも
あまつ乃あけ

大津坂上郎女

六ノ廿九
古里よあれつゝ乃ハ何れをまつにかもあ〻
春日 里 添上郡

大津 二林

三ノ卅三
春霞かすが乃里よこゑきなへ
ハノ十七
霞つゝ春日よけちの梅乃ゑをたれ

大伴坂上郎女

〃
こゑ春といまさらハ思そあやうき

大伴村上

〃
かゑるまで春日乃里の妻よゑ山
四ノ五
こゝにあまて春日やいかこゑきハり

多氏ハ来

〃
こゝにあまて春日やいかこゑきハり
そゝゑゑのハ雨ふてをれ
仙を重律

ナノ廿
あまつ乃ゑ乃ゑたゝさひてゑゑきます春日和さして雨ふれ

春日野

三ノ卅二
ちゝやふる神乃社しあれをハまこと

〃
春日ゑたあまつをとめをハ神ふふつきて

佐伯赤麻呂

四ノ八
雨ふれよ山つゆ道をよそをれくらし

石川郎女

四ノ卅六
春日ゑた乃志乃ゝに見えぬこゝろと

大伴像見

七ノ卅五
春日野ゑ咲ゑる萩をかざゝえハいまさふりこそ
十仟
こゝろゑゑは春日乃ゑに雨ふらぬかと

〃十一
春日ゑたゝゑゑをとゑしてたらゑも

〃十二
春日ゑふりある雨をあきわり秋乃一つますまとも

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

十ノ十一 かしらの〳〵しほちらうへにおとふるもみぢ
ロ まうあふこそうつまひめを行うへうちも
ロ十五 こうらうをは春日乃神へにそうつま
十ノ廿三 かすうみに放ちにく伊をもも
ロ廿七 まつ日乃をあしちらあい初こも
ロ四十二 あふちの風ふるこえまつ日乃をも
ロ廿九 うすうをと乃あさちうへにおくれかく
十九ノ廿五 まつ日乃をにいつくこうろ梅乃もと笑くありまてうへうくそて
四ノ廿 春日山
かすうみ乃神へにとこふるとのも
右一首穂積皇子今誤脱之

大伴家持

中臣宿女

ロ九十一 まつ日山こまうあふ引人うてゝ月まにひとをうとも
ロ四十三 つまけう山乃紅乃色乃ふかゝしくもうぬ人にとこふるとのも
ハ十二 まつ日山かすうみ乃神へにとこふるとのも
右一首穂積皇子今誤脱之

作者未詳

ハ四十 あこそうりんふもそいくこうれいかうより山いうつまんをを

七ノ三 まつ日山かしてうるる時月いかり
ロ廿七 まつ日山やまくらしいそよの一の苔のふもに月もちかてぬ
十八 きよふこそまいくしらふもや立たうり
ロ 多くこそまさくしらし相見ぬ日ふ
ロ廿三 ふくしまの春をうらし春日乃山
ロ廿二 長月乃もうれのあにめれをうり
ロ廿二 丁重よさもあをきの家あくしまつ日のふもをとうたをう

口四五
一ノ二
一ノ二
一ノ二

十二ノ四
春日なるみうら山にわる二中をいてこえ
かさの山 二笠山をいふ

二ノ二六
あふことハまきもと思つれ立ち山人にも
檜津 允恭天皇紀三年到春日
食檜井上是也

十六ノ十七
さしあふてもとりをことといちひつの乃ひ
乃ぬ川 春日にて

十九
めと川乃うれをこゆ一にて新まてにこ笠ゆふ
ま神山 日

仙を未詳

二ノ二四
さほ道ゆ あふ人もなきおくめさハ妹をめくれかあひらしめそ
長屋王

仙を未詳

よそにのミ君をおもひてゆふくゝみ乃山のかみをあれつゝそへる

十ノ六
春日なるはつせ山ゆさほ乃ぬ乃ち一時
引ま乃山 日

二ノ二九
ふじ乃ち祢引ま山に妹をおきて山
越ゆくもあゝぬ妹ゝめかも
よしの川 吉野にあり

仙を未詳

十二ノ十九
わもことここにありすが乃よ吉川よりも
こゆる田乃ぬ 吉日にて
又

丹生女王

八ノ四 旋頭歌
たらまゆみ我の矢乃一乃あてゝこゝろ
もふてゝこのを

仙を未詳

二ノ四
るまとよゆ一乃秋ゐいつ〳〵に咲うちちん見る人あし
或うあもうるる兄ゆちゐるふ兄ゆちゐるる
十ノ十
まるゐたゐひ〳〵くふ乃ゆふたくよ落くてる〳〵むるゆにに
ロきす咲ゐゐもの〳〵よ楊もゐちちあ〳〵ふる人もかも
ロ三四
秋右すれふいあ〳〵すゐ乃ゆ一の秋ゐ雁ちゆ〳〵もも〳〵と
ロ三六
秋風ハロにくふふおぬたう乃ゆ乃ゆ
ロ四五
かもゐるをきつゐれあ一て るまもの咲の〳〵乃ゆまていろつきて咲ゐ

大伴家持

八ノ四
るゆとゐゆてよ秋ゐ秋ハこうろ乃ゆあう一つきゐれ咲ふるんかと
八五二
たう乃ゆ一のうゐむあとうはにえて味ふうをきよつと
九ノ十二
をるゐ一〜秋ゐ〜ぬきちをしうせ露ゆ乃ゆ一ゐ
ロ十四
るゐ人よ神つけ右秋もたうゐみ白ひちち〳〵きゐゆまるのこゆ
ロ十五
たうまるのるゐよすることゐぬつきたゐ〳〵をゐ一しハと
ロ六一
るゆとよ秋の咲よ上の胡香に書らゆをし一ついてろらんう
ロ六一
るゐ指と乃咲上よ雲ハあれふうたて〳〵兄のこよゐはハ

九ノ十
くゐうまるよを兄咲こよ秋風ふひもととあけふたてあ〳〵すゐも
ロ十一
あるまたに丁ろ咲ある三ゆとよ兄ゐ秋乃ゆ兄ハこもあつむも
ロ六一
たうまるの咲一つふ首よすゐつひたくの仲にろれん吉大兄うと

中臣清麻呂

ロ六二
大兄乃はをてめすし三ゆとるの咲一つるることに初のうゐある
たゐてよと山

伊香古人

六ノ七
かるろよ三月山ようゐうこかもいてくる月乃おてくてるん
ロ三八
すゆ〳〵をゐ三ゆとる山にをめてれハ星にかうくるむちひてこれ

大伴坂上郎女

ハノ十七
春雨乃志くふるたる三ゆとる山の梅ハいうふうあるん

笠金村

ロ四
春日咲に志ろしふるるあんうもちかるん三月共山

サノ六二
こるまもとを乃をゝ〳〵乃ゑハあれぬゝ
ゝ〳〵城真人

十ノ四六
里ととけふ雲ハおくゝ〳〵こるまもとの
四六十
クメさうれハ、れくるさもし〳〵たゝアとゝ
四四九
こるまもとの山まつきのいろはくゝれて
かまくらの山のふもとにおちくゝもみぢある秋のあけゆく
仮名垣魯文

七ノ三
ますゝをよゐもを忘振おこし〳〵かまくらの時つさ一ばくて新月夜も
佐保 源之助

六ノ十九
おゝ富士ふ雪日乃山めとおふいく春をるとゝふのハ十ものとゝかをろ
あ川こるもとゝくくしれあゐ忘ことゝ
初乃ちきつき雪〳〵おくつきて乃にあるせをなおんてあそいん
こゝ女をこるめてゆく原里を待ってにわうするまをかけまくも
ロ

ハ

あやにゝ〳〵いそくもゆく〳〵かのてちるをハ
ちゝ〳〵帰てさ月のおいそたおふる苔のねとりてちゆふるまを〳〵て
ま〳〵我ゆく水にこゝもそま〳〵我すあるをゝ乃こゝとゝ〳〵し
きよ大ゑ人乃ゐ月さ月乃にといそてんこゝろはゝ〳〵
又歌

梅柳すくらくをとさ月乃内にあそひし〳〵ことをこゐもゝ〳〵に
六ノ廿七 大僧坂上帝女
わゝをこゝきてるおゝすゝさ月風ハいくゝおゝにいるまて
ハノ十六
ひゝせこゝ尺〳〵人さ月ちゝまを御をゝ折てゝたもえゝらゝしもゝと
廿ノ五四 四方女王
久秀にゐるまを帰〳〵さ月ちをハあゝ〳〵やちてんこゝるゝをあこ
十ノ四七 仮名垣魯文
我つふとる風をこれハさゐ乃ちゐ
十一ノ九 さ月のゝちゐあゝ〳〵乃ふけハかつるさハきをゐます〳〵もゝ〳〵に秋く夜てまよ
さほ川

四ノ九 旋頭
さほ河の乃きしよはふかりてのあさりもましき
たゝしはなちゝくれなゐに
十九 佐保川のさゞれふみとゝろめはしの
「ふる帰さほの河瀬乃ちどりなき波やもはもあしわこてふくくも
「ちどりなくさほの河の瀬をひろみ
八十六 寺よもるさわのかりの春物ハ今ハまさりにけるとも
安部年足 一本作安部非
四四
佐保ゝゝりきつゝよ上にのりをうつ
「四八
ふる女くさほの川との清き瀬を
八十三 さほ河の乃水をやきよみ梅の花
大伴家持
六ノ三一
おとゝはえん末さをる雨をさほ河の
桜花益人
きりをぐらしつゝ
梅井志人

サノ五四
さほ川ゝこほりとけるうすひの
七ノ九 さゝ川にもみるもちをゝ
「ぬる河の乃清あさゝにゆきふりかをつゝ
十三 さほ河ふあくなるふるあたしうも
十三八 ぬる川の河波多ゝもつけくるも
さほ山

三ノ五七 さほ山のうたゝ川裏うるこゝに妹を思ひてゝありみ
「むろこそよそにとゝ見しくわきもこ
八九五 和乃もるいもさほ乃山ゝをきるきとゝます
石川足人
六ノ九一 さほとけ乃大き人ゝ家ともむさ
佐伯赤麻呂
七ノ三二 さほ山をかほふうしゝやとゝきみ
と風ふくふめ

十ノ六
こゝろゝぬにあゝひとゝあてゝほゝるゝさゝはゝのゝふゝしゝをゝろゝに
十二ノ廿二
あゝとゝひゝもゝゝぬゝはゝすゝゝゝあゝこゝさゝゝゝゝゝふゝたゝつゝあゝまゝ雪ゝゝゝゝゝ

八三七旋頭
いあたてゝとこの岩つゝおてゝこゝおふふきをりわ秋ハゝそいふ
ゐゝ人ゆきゑ

紀慶人

口三九
味うゐをそゝゝおをう〳〵乃秋をきハ此月ころハちりこゝおゆゑ

大津坂上命女

六ノ二八
もゝけ岩に神さひをちます内ゝ久ゑるゐ代松乃本ゑ年のゐゝゐゝ

紀慶人（鹿イ）

一ノ廿二
乃すゝゝ〳〵吾夫君ゐひり乞日ゑみこあゝ九一乃花ゐうゝ〳〵にを
多國をめ一たまそんゝみあゝゝゝハたゝちゝさんゝゝ神ゐゝゝおゝ〳〵
に天地とよるゝそのあゆゝことをいそゝゝし乃ゐゝ國乃衣ゑのゐゐれ
よゝ山乃まゐ九ゝくひゑつまゝてをとゑゝゝ〳〵ぬ乃やそゝち川よゐゝとそゐ九
うゐ〳〵ゐゝをゐそゐゝとゝさゝゝく陰雨とゐゝとゐ九ゐゐもゝれゝ九

作者未詳

かとゝもの水にゝゝきゐてわゝ九ゝくる日ゑ法つ九ゝ國ゝりこゝをゝり
我國ハゝこゝよゐにゐゐんふゝおゝつるあゑゝし
川にゝとちこゝせ係まきゝ乃つゑてをとゑゝ
らむいそはゝくゝゐれそ神ゐゝゝゐゝゝしゝ

口況升

一ノ七三
ハ湯紹そゝ我大君ゝるひゐる日ゑゑゝこゝ乃
はゝゐ陰ひゐをゝにやすゝ乃はゝゝゝ乃ゑゝ
とゝ乃きゐゐゝ山ハ日ゑ九たてゑゐ志ゝゝさひたてゐゐゝ
神ゐ乃ゝこゑゑゝう山そ日乃ゑゝこゝ乃花係ゝゝ九ゝ
いゐ乃ゑ耳ゐゝ乃きゐゐゝ山ハそゝとのゐ九ゐゐゐふゑゐゐゝ神さひ
たてゐ名くゝゝゐゑゝ山ハゐけゐゐゐゐとゐ中井にそゝゐ
くゐるをけるゐるゐゑゐ天ゑそうけゐゐゐゐみゐけの水こそゝ
そゝゝゝゐゐみゐ乃ゐゐゐゐ

日

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

一ノ廿四 なもらふよたるはが〳〵あれつけやをとめ
十ノ五六 ふちかるのふるとし里のあるそれば咲てちりぬき名付つて

挽歌 巻二人万呂妻に
かくれ市とよめり

三ノ四十 玉もよし池のうきねの久る時すくとあそびよ

紀皇女

十ノ九八 あしたよふやかすみやしろのいそのはきいくよまてあらんこゝろ妻とも

猟路乃池 ○郷巻三人麻呂妻に
わかこをうちの池とよめり

仙を市洋

十二ノ廿七 玉ほつ人かるもち乃池にすむる乃名もちてとめそと君をそ思よ

同

式三市部宗我

ますみもよしてかは川ふち瀬ちとりなきこそわたれ

○郷

志貴皇子

一ノ廿三 たゝなめよ神ふきかつをあしろ風ふく夜をとそちにぬく

仙を市雄

二ノ廿九 玉もよあしろ乃里をもまていねはこそあしろもあらん

長屋王

三ノ十八 わろ坂こゝいにして〳〵乃里よあしろ〳〵ぬれ乃名をたつ

山部赤人

三ノ十九 こゝろ乃神あひ山にいそきそしてきくにたゝるくたもとつとにうそふくあすの

ふるさとやこゝ山ふるとしらくもの乃ふもとをつゝみかくせる

乃敷ハ河〳〵さやけ〳〵旦夕にふゐ山〳〵はるかすみ秋

ふくるころとゝもをゝくおいて〳〵おとをは

反歌

あしろ川ふゆやとちすらん多つ乃ねのあとひすく〳〵きこゆあしろ川

仙を市洋

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

十三ノ十三 妻はれいの紅葉をそらへ私はけふもふたつ
乃芋にをれあるうれ汁乃もやき漸にかゝるを原乃うちふひをこゝ
ようて加減乃けふをけぬ〳〵こふ〳〵くともるくることり
はつうと

みそ

二ノ廿三 あれう汁乃ちゝこわ〳〵せうゆをはふ
「あすう川あるゝたんもとおとへかと古夫君乃こうるふ乃色やも
二ノ廿三 きふとかとあすうよ汁乃みさゝよ

上古 麻呂

柿本人麻呂

八代女王

或云あれう川々ふもるもるる

四ノ廿五 妹にふりこゝよりけきをふる里のあれう乃川にみそゝぎ
或云なつこゝえうよたまへに見そゝぎにゆく

豊浦ち尼

八ノ廿九 あれう川申そゝよ里乃秋もきはそふふる雨に萩う古ゝふん

作者未詳

七ノ十 雲月とゆくさへなくにあれう川きよ
二ノ三六 あすう川七瀬乃よとふすむるもんあれこそ浪もたゝ
二ノ三八 孫にもゆく〳〵乃るよ汁乃ふるもめ〳〵ふ
「汁乃う汁乃流〳〵に玉とハおひ〳〵流をあ
十ノ十二 今ゆ知るすきことのふとう乃る川ま面ふりてゐきつ流のとと
二ノ三六 あれう川とみちをふあるかつきよ山の木乃ふいますちるし
十二ノ廿 乃すう汁乃あ雨とろ〳〵いそ〳〵しのとほえみうと
「あ雨う川ふゆをこまやり いや日けおふ
二ノ三四 乃ふふ汁乃ゆ〳〵流をもやをはやう〳〵
十二ノ三 ちる乃う川ふう川よう〳〵こゝそこ〳〵つうひ〳〵こうひあけでゆうめ
十九ノ卅 あれう川かはとをきよみおうれふ乃ふ乃いやとねそをきぬ

雷岳

三ノ十二
大君を神にしてませあまさかる
鄙もいろちに寄そせるかと
神あびの里

七ノ十
清き瀬に住むちどりの声のごと
神をぞ待つ
神奈備山

十ノ八
ももしきの大宮人のかざしにと
たふのきしだり山にあけくれ鳴つつさえ
すてに住とくきたつこひすらし
みな

十三ノ二
たひにして妻こひすしもとほく
ある人ひとりをまちそ乃もの
ひなあく神あひの清きそのの垣内園の池水つつみ

十三ノ三
あしかもの乃こりもち乃園になれゐる
千鳥神のみもろを
神のみもろ
神あひの山よりそ新雪きみ

十三ノ四
千鳥神のみもろをいつきあるかも
神乃山いはさかきてにあるよく
ゆきすきこと乃よくゆきすきこと
神にいつるかも

十三ノ五
神あひのこと乃山にいそふ松
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ六
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ七
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ八
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ九
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ十
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ十一
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ十二
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ十三
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ十四
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ十五
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ十六
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ十七
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ十八
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ十九
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ二十
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ二十一
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ二十二
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ二十三
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ二十四
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ二十五
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ二十六
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ二十七
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ二十八
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ二十九
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ三十
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ三十一
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ三十二
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ三十三
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ三十四
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ三十五
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ三十六
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ三十七
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ三十八
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ三十九
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ四十
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ四十一
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ四十二
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ四十三
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ四十四
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ四十五
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ四十六
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ四十七
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ四十八
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ四十九
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ五十
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ五十一
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ五十二
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ五十三
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ五十四
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ五十五
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ五十六
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ五十七
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ五十八
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ五十九
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ六十
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ六十一
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ六十二
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ六十三
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ六十四
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ六十五
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ六十六
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ六十七
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ六十八
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ六十九
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ七十
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ七十一
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ七十二
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ七十三
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ七十四
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ七十五
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ七十六
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ七十七
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ七十八
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ七十九
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ八十
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ八十一
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ八十二
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ八十三
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ八十四
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ八十五
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ八十六
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ八十七
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ八十八
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ八十九
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ九十
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ九十一
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ九十二
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ九十三
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ九十四
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ九十五
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ九十六
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ九十七
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ九十八
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ九十九
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

十三ノ百
いそのかみ布留の山なる杉むらや
いくへをかへてこころまつらむ

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号　寄別6-3-1-4
ガラス使用

十三四
みてぐらをなゝらうちいでゝこゝろづくして我ちつ
をおくりいでゝ乃神あひ山に納奉
るをたえ〳〵まつりまつるよし〳〵と
いとたふとくいはひこめたり

反哥

月日とかそふるほけもとひけかふるみきろれ山乃ろくやそころ

九十六
神あひ乃神うの枝にすゝ枝のありひとすきんに
十四一
神あひ乃山もゝよろ〳〵ゆくゝもにかそつゝ帰〳〵こあきやいそんとや
十一八六
かみあひにひとろきたてゝいそをもくを人れんハもとりあつゝぬゝと
四四
かくるゝ紀のくちもみくはのいそふちれかくれてのこやわゝゑとゝん
四四
うみるひれあさ〳〵ぬるをこゝろ〳〵志ぬつるをゝあのもろみく
十二八九
神山乃山ちとろをせくゝ収乃みとたゝえきゝハ乃ちとと吉書

神あひ川

摩見王

八十七
かそろゝあくゝまゝあひ川にかけえてふや学ゝむ山吹乃花

六十四
志はゝくゝもゆきてみてゝう神あひのふちいあさひて流れうあろん

いをせ乃表

大伴旅人

八十四
神あひ乃いそ乃ろ乃よりぶこるいゝゝゝ

八十三
ゝゝふのいそをゝりてもちきん

刀理宣令

志神乃系 紀氏ゝ真神原

舎人娘子

四五
大ゝ乃まゝよふにふる雪ハいゝゝゝふふゝを家もあゝれくに

他を未詳

十三十三
ゝゝろ乃神あひ山のろくゝとり雨いふろ
ふきぬあらちち乃志神の系雨あけきり
ときや

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号　寄別6-3-1-4
ガラス使用

かつらにて人をおくるそのはゐの乃そ枝おゐてきて
　　風つら山　和名ハ泊云

三ノ七 やつら山こゝちとなつかしふ（ふ魚偏）ちやつふ者にきよひて
　　或云いこま山
　　やつら川

十二ノ三 やはらかにうれそこたえし四くさの乃つぎてそこふる時雨ふ
　　きよら乃川　和名に立つ

三ノ九 昧やしろときよみ乃川のかはもと昧らくも（きこてろふすゝ
　　ふてよ表　和名ハ宇陀郡宇賀志宇賀村とふる

七ノ三二 アとろすむろれそ乃ことも菅のねをきゝもぬにろきつはきせん
　　仙をまた

十二ノ八 木とさるぬふやふといさゝきとろ乃ひろまてよ
　　三笠山　高市郡

九ノ四 ふとろ乃神ふひふ山にあちむらふかきよ山
　　初月夜出まくをゝこ笠乃山のこなたん（ふとひてゝふと

あしのようひあそさゝめやもあゝ川の山をそふをはと四乃さるゑ乃橋　ふ市郡

十二ノ七 をゝり四乃板四乃橋のこゝろもあそはゝふり四乃くまひれくまと河にこまとゝめてこゝろにかゝりやふんふこひそわぎと
　　ひれふ振　和名ふ市郡檜前此乃久未

二ノ九 いめにてふふさゝろ（とのをおふ（（くゝえてとするさひのくまろ波

七ノ八 さゝひれふ振乃ふ川のをゝ和そやをゐろをゝ（（こゝろもあ洋

十二ノ八 ちひろくまひれくまと河にこまとゝめてこゝろにかゝりやふんふこひそわぎと

二ノ九 つるぎ乃池　ふ市郡

十二ノ九 こほり（をはるきこ乃池のはちすゐにぬまりいけるものゝくつもこあする
吹にあふをゝこゝろつるぎをあふとゝ母きこせてと・我ふさよあこの池

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

いけるてこあれハうたをしたてにあまそに
　　石家
いにしへの神乃ときよりあひまもし今
　　こま山　口ノ歌

一ノ九四
こま山のはるくつはさ乃りくよえはるおとつれこゑ乃春成
　　或云河上乃そえそれもあれこゑ乃まき映て
七ノ六　わうせこをこちこま山を人もいなをそとまとまきしし
十ノ六　ゆうひかこと世乃山乃ようひかりかくれ
十三ノ十　たてにこめこゑぢくいはをつこもあつ
　　口奏もあわらく
　　乃と流河の口と川も口わら
三ノ九六　ちくらなくいてこま乃ち川まるのさやけきたきつ乃音こそ
　　私王
　　波多少久
十九ノ四五　乃と川の後ふかあをんさくしくもわれとりつてふあしくもつるか

後

十二ノ十九　こせ乃と乃と川の後もあるもいとたふとき
　　をちこ　口ノ歌
　　仙吉志津
二ノ九二　長哥器之名におをちの大北とをおの神うへし石もの
　　いまきの宮　口ノ歌
　　作者未詳
九ノ廿二　いとくかをいつまよりもよりてれつま松乃あをふる人乃けむ
十ノ九　後あこよりもちくをてこちくきまいほきの宮成あをそこあり
　　月
　　きつき乃園　口ノ歌
二ノ九九　よをにえしまあこ乃宮と名中那をそ
　　口どくたてうひしこ乃ふをちちふはもあ
　　月
　　作者乃名
二ノ九九　朝日てるさよ宮にもれみつわらなくあらそやもさもおし
　　口橋乃宮成あふありぬもさき乃宮つにとりいしにもく
　　口ほ　もあきちこ乃宮つにかつをかハ落のこハしに旅すめもん

二九八 ㄱ 冰れるさゝなみ晝つにおくるのようなきこゑふこれあしこゝろを

ㄱ

二九九 ㄱ 橋乃宮 ㄱ水 冰の表 冰の裏

ㄱ

二九八 ㄱ 橋乃宮にしてをひしわらはをみて

ㄱ 川ぞひをゆきてかへりこゝにて

ㄱ 昔ふこゝろ衣にすゝふにをひこゝろ

ㄱ 宮ひろわらはの冰なの昔ゆゑ

ㄱ 冰のうへや池のようなるもちうるあしひろゆきあし思ましくも

二九九 ㄱ 多くの光わらひみこの道をこゝろ冰

ㄱ にてしらゝ冰をとる時かはりつゝあるう

ㄱ みをしも昔なもおやしすむることあるう

ㄱ 宮にしらゝ金のあうことを今こゝろかいおもひにけるあと

ㄱ あひくとりわけ入めれいとしくしらゝ

ㄱ 初日てる冰の門にあまたしく人さわ

橋もち ㄱ水

十六ノ十六 橋乃寺よりもみにわらいるしうるはあり八磐あはつゝん

ㄱ

ㄱ

柿本人も

二九八 冰れるさゝなみ晝つにおくるのようなきこゑふこれあしこゝろを

ㄱ 橋乃宮 ㄱ水 冰の表 冰の裏

ㄱ

二九九 ㄱ 橋乃宮にしてをひしわらはをみて

ㄱ 川ぞひをゆきてかへりこゝにて

ㄱ 昔ふこゝろ衣にすゝふにをひこゝろ

ㄱ 宮ひろわらはの冰なの昔ゆゑ

ㄱ 冰のうへや池のようなるもちうるあしひろゆきあし思ましくも

二九九 ㄱ 多くの光わらひみこの道をこゝろ冰

ㄱ にてしらゝ冰をとる時かはりつゝあるう

ㄱ みをしも昔なもおやしすむることあるう

ㄱ 宮にしらゝ金のあうことを今こゝろかいおもひにけるあと

ㄱ あひくとりわけ入めれいとしくしらゝ

ㄱ 初日てる冰の門にあまたしく人さわ

橋もち ㄱ水

十六ノ十六 橋乃寺よりもみにわらいるしうるはあり八磐あはつゝん

ㄱ

ㄱ

柿本人も

二ノ十六
あとりはくあめよかく山 妻こうまにいくれ
ら花木ゝれ乞ゐにおきうにハかとめようそ
そくしきの大夫人乃もりてあそふ船に
おくくあくに

又
人こうんあくくもちくいつきひるをしやたうへ毎乃上にすむ
いつのまも神さひけるうかく山乃ほこ枝うくれに苔むすまて
魂乞あとりはく神のくく山寺あひをさりくれハ楊ふこのくれもけ
にむ風に池浪さわきあまつゝふハあちもゝとゝそ
ひもゝきみ夫人のまりてこきこてふのいさをうちもおく
てさふゝもこうへとす

二ノ十六
まろそてなきくくしちくへのをゐ

二ノ廿
ゑんれまやひもにつくく山乃ふりにし

芭蕉翁天竜お渡大津ゟ
大伴旅人
あふ乃うくや仮

七ノ六
いにゝつ乃こゝハちくめをおこてとくし
十九 くくまゝあめ乃かく山こゝ寺ゆふへ妻くまつらし
十ノ九 かく山にゆまるひさかゐくあひら

垣安の池 香具山の北方

二ノ二六
もにやにゐ乃いけのほくこのことりぬのゆくつ
をゐくにとりぬ天ゝれうくゑ山

万考云檜隈女王作哥

あをき沢の杜 古事記云坐香山之 畝尾
木本名泣沢女神
いあをき沢乃杜にこもる鳥ハいの祈ゐも叶ふ大君ハ
耳ゝしの池 十市郡
十六ノ七 畝尾也詳
みくゝしの池にうめしゝをこうきつくかつらハれとゐせふん

京極野 十市
八ノ十六 くくゝ野乃萩乃ふくえに妻ゐつさすみしくるゝをゐ
竹田原 弐十市郡 猛田神武田
四ノ五五 うちゆくゝ竹田乃原に鳴くゐのゐかくくゝ
大伴坂上郎女
ゝゝしの池 十市郡
畝尾也詳

倉橋山 吉川
十市郡

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

七ノ七二旋頭
橘をみ〳〵は山にあてるちらまくは
てまもちくくと
ぱ〳〵なてのく〳〵は川乃いをいをは
いをはは〳〵いと
もゝたてかくくもゝ〳〵初め川のちつ
川乃ちつあけ

三ノ廿二
く〳〵は〳〵乃山をみ〳〵おこすりにいてくる日乃ひかりうま〳〵き
巻九沙弥女王分未白くまちうきき
磐余山ノ歌

十二ノ七九
つぬさふいそれ乃山に白ゐる〳〵かくれるまでおきこうと
大津皇子
三ノ四五
く〳〵ふいはれの池ふ鳴くとをそきみ池
たも濃山ノ歌 今云多武峯
九ノ十二
ありをたも乃山をちけおもわを川乃淀に沿のさゝみる
迫江大津宮天皇天智大帝哥類聚哥林説

一ノ十三
こもり山をも 城上郡
こもまき流みと兵山吉丹〳〵あら乃山のいつとるまでには〳〵にとえつ〳〵ゐ乃
をものかくふら〳〵や
右分

二ノ梅
三ノ梅山をちとかくれうをとこころあるかくはふらんや
作者未詳

七ノ卅旋頭
うぬさとる三梅乃をちりうそ山枝をたをり〳〵にをれ
をれ〳〵れぬ
右

一ノ十三
みと山乃ちけきうりや乃さゝ萩乃きめにはくるれめにつくとう答
二ノ十一
ゐく〳〵けみむろ乃山めされつ〳〵さをのをつひにあをてをと
こそ布をな
二九ノ五
みとろ乃神よかを枕いめゝふええつゝもとれいつのあようてゐさ

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

八四二
こもりくの泊瀬の山の山あひに
四八
うまさけを三輪のたゝなはふ杉
七八六
わりきぬもなつきそめつゝうまし
ワ九
こもりくの泊瀬小国を
ワ一一
いにしへよ有りけん人を
ワ三七
ぬく川乃こにし人の多をつゝ
九一七
まき山はちりすかそふあく
十二七
こもりくの泊瀬小国を
十二八
よふかもり 紀には苑田吉隠或は城上郡
ワ六二
よふかもり野本にふりおほふ
ワ
日カゲ
八三九
よれゝりの山にふれ雨の
二ノ三六
ふる雪はみ山ふゝとよふかもり
十ノ四六
吉野のあさちをはくよれゝりの
ワ
日あこもは乃
ワ四四
わりかこのあさちいろはくよふかもり
十二ノ二旋頭
泊瀬ワ郎
人こそもも

或云人足はゝもゝ

十四八
ゆふけこすかそふあくる
よふかもり 紀には苑田吉隠或は城上郡
ワ六二
よふかもり野本にふりおほふ
ワ
日カゲ
八三九
よれゝりの山にふれ雨の
二ノ三六
ふる雪はみ山ふゝとよふかもり
十ノ四六
吉野のあさちをはくよれゝりの
ワ
日あこもは乃
ワ四四
わりかこのあさちいろはくよふかもり
十二ノ二旋頭
泊瀬ワ郎
人こそもも

或云人足はゝもゝ

長屋王

丹波大娘女

仙を未詳

三輪川

ワ

或云いもこんけ

大津皇子

仙を未詳

ワ

仙を未詳

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4

ガラス使用

三ノ四七
こゝろくよ、初瀬をゝ先ゝ人にまけるおいこゝろあるこゝに仙人もあつ
「
河風乃さむきもつ瀬をあけさうこゝろあるこゝに仙人もあつ
十ノ五三
初瀬風ゝくふくよはいつまでゝゝ衣ゝしきわひとり秋も
十ノ四四
こゝろくよ、そゝ初瀬版ハそこゝあれ
十三ノ二五
おとるとくゝ乃きつ瀬を國に妻しあれ石ふめとゝもおにゝ
きつ瀬山
十三ノ九七
こゝろくよきつをの山まはこのあたりみ山をはつそのよろしき
山乃いてゝちのくいしさ山てあゝこゝろしき山乃あれもゝをも
壱日翁老
三ノサ一
ちゝめさをふいそれとすきん初瀬山いつもこえん赤ふけみはゝ
柿本人麻呂
「四八
こゝろをよきつをゝ乃山の山ゝまんいそうふやいもにもあゝん
大伴坂上郎女
八四五
おもりくよきつをゝ山ハ色つきぬちくふのゑハゆりにゝゝと

七ノ五六
こゝろをくよ七谷の山にてゝ月ハ
「四一
おもりくゝ乃きつ瀬の山よ妻ゝもちゝ
「
まゝ七ゝちゝこゝゝかとこゝをくよ
十ノ六三
あまをゝみのきつをゝ山にゝる雪のよ
十六ノ二
こゝろくあゝハルきつを山のいそ木にもこゝゝハとゝとするゝ
初瀬川
十三ノ三
天をゝ乃かけさへゝゝもこゝをくよ初瀬の河をうゝふさゝ舟のよ
「
ゝこゑいそれさゝあるゝ乃ゝ乃をゝよゝうゝハふくゝゝゝゝ
ゝしゝはなくゝもおきつふゝきくよこゝをひこゝをゝこあまつゝふ
ゑ
さゝ波やきてゝあゝるゝきつを川よゝ(き)ゝ舟のあをさゝふゝしさ
日
十三ノ十二
こゝろをくの片つをゝ川のよつ瀬にいくゝひをゝちゝ下川をふまくゝひをゝち
いくひにハ袂をゝけまくひにハさゝ更ゝあゝゝゝ妹を渡ゝ

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

すあくとふいもうあるもいそくこそ国にも家あもあり統くもんもうあ

かも
ワ九
こころりくくりもつ頃の川の上に滝に物をやりうつもつ滝に物をやつ
かづきを上つをりああ統くいしめちつ滝のああをくいしめふ下畧

六ノ九九
いそくしるたやちちうくく神滝川統る津ふくまでもあてうん
大神宝文

九ノ六六
こころちよ神のおはをるそつ野河のうをしたえすいえうたをめや
紀康人

七ノ七
そつ野川ちくもふふにちちめまつ
仙を未詳

ワ
河滝川あうくくをを乃滝をそやとあてこん滝乃をおもやけく
ワ三八
統を川あうるこあわのたえはこそ寺ふふうげどそはめ
九ノ七七
神滝河夕わうりまてわきもこうやうちうつきふうり
十一ノ八三
河滝川をやそやを滝をもあひあけてあうすやはやとひしあふ
仙を未詳

きの山 ワ郎

七ノ五
ある神乃きたのこきくまれむくのひくくりをくふをつるうと
ワ
こころちやをを乃山あうにこくうまをを寺むくふをつきてよろしし
ワ七五
こくうまををまきむくふ山いつあれやとにし人にやきやがんやと
ワ一
まきむくの山ひきて初れのうふうとよ乃ひをやきて
十ノ五
まきむくのひくにきてるきてあおにしもかてあつてこあやと
ワ
こくうまををまきむくふ山ふまきしれハ本のきちあきて安相引
十ノ九九
あしりの山もるきまきむくの乃きしれ小きにこきふりくをを
ワ
きて山乃ひはもいまさきのふ小松うく社由あるきあうほ

あおし乃山 ワ下

十二ノ六二
まきむくれあれしの山にをかつてふふれてもめれてをこし
ワ

七ノ五
あおし河うを滝たちぬまきむくふけにそうつし
ワ六
きて山乃あおしの川あ初あ乃たやるとふくまさかつうむ
ワ
ぬはるあのようきりくれふまきむくの川とうもも品もこき

ワ

もづきくみ

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

（ワ五）
あま雲の山川の流のあるかぎりにもてるもの
（ナノ五）
かきろひもみまきりくれいさつ人のゆきうるほ
はぎの華　ワ
（ニノ十一）
つばきの華のやそちさとにみちあふしもひとし
（ワナ九）
ばかはきひさしもさいてつはきのやそよちあつるこやあれ
ちまき歌　ワ新二方
（ナノ三九）
君にこひうらふもとそれいちまきよ地の私家
ふる　山四郎石工
（七ノ廿七）
いそれうこふるよろき四をとひでんともちふくと
（ナノナ七）
いそのうら妙の神校神さひこくわきやはうくに
（十二ノ十七）
いそよりこふるよる松くうにすることを
大仏像見
（四ノ四一）
いそのかうふるとと面にさくめや妹にあるうんやいひてしものを
和気大首

（九ノ廿六）
いそよりこぬるのわき面のわにをいてんこのち仮
冊生王
（三ノ四六）
いそのうこふるよ山ある松むくのありひすくつき男あるくに
（四十四番出　十一ノ七）
をとめくう神ふる山のうこりきよ久しきは松を
仙石市洋
（九ノ廿）
ふるう山のたふ足わくんをたにていのすく
ふる川
（七ノ八）
いにしへとかく同はやちめひろ人はふる
（十二ノ十九）
うれくうり多ふる川のさく秋流まみくと君ハおとのぬるも
わきとこやあをうすふるみの上神ふる
（仙石市洋　称の名　首上首下）
玉まくきのてつきうあくまにとようる
（ワ五）
まき柳のまつくきの山にきつものたちてとめてし姉をしもよ
あさ川の山　首位ふち

十ノ五
けさゆきてあんにをるんこいふこうに有妻山うて　春こるを見る久
〃こゝろ〃名にかけよろしきあきつまやまにきたるり
たらまのかや郎　万上郎　日
七ノ九二
りつゝきこるよりもやをてちあけくまくなくやさ
七ノ九三　日
十ノ四四　大坂　万上郎
大坂をわこえんまんふくかをにもみちいあるころふりつて
月号　日郎　日
七ノ六　はる
かくをとめはむつをにちひろはこゝろの衣乃うみにおくん
二ノ九六　大来皇女
うはをこ乃くふる秋やあらんよりいふくこをいませをわこむ
七ノ六　作もお祥
さだにこそ妹山ありとくこゝろけみの二上山といもこそ見れ
十ノ九九　大伴旅人
ふる上にかくうつ月のをしきをれやも味うさをうくおこころ
くれの小野　和名鈔に忌海郎
六ノ九四　大伴旅人
ちしまくまの小野よ秋乃芝草人吹れしをてたもるむ

七ノ三八　廣瀬　郎の女
ひろを川神ほくはりあさきをやんふるあこわこつるむ　日
六ノ九五　鈴田　平群郎
ふるたつこの山乃雪あにるはくはにおこえて椋也麻呂
いちつ山いやをさくみあこするはくはにそう山みをき吐のそ花
又ふるもみつをあうちはうい山たるきはこまるる我見しをひてみこ
事ますあんこ田ちの号一のそにみほふしのふはをんいつ乃ちくふ
咲ちむ吹に山こう乃むこまおるんこ号の末ますば
友千　景之

九ノ九　仙を未詳
白まよたい田の山よ流の一のふくよおそ
山こる見しやまのいまる乃つきてふれこちつえいあるこにまり
ちつえたのこれるふいちつくいちりあこれをまの於椋也く鬼こ
かつりくるはる

本集初句朝霞

わらはきは七日はかきつ〳〵新田きみゆふ
一ノ四　　長田王
わすれそこおきつ〳〵波たつ〳〵山いつゝこえむ妹かあらくも
十七ノ十六　　平群氏女
君により吾名はすてにきつ〳〵山たえ〳〵ねのみなけきこゝろも
九ノ廿三　　大伴家持
敷田山えつ〳〵越こ〳〵ちくるをふん吾かつるさに
五ノ廿五　　作者未詳
ひさ〳〵と袮乃こ〳〵ふれをるに立田山こゝもまちゝづばるすゝ〳〵あんゝ
七ノ十六
朝霧乃つゝたゝるひくたつ〳〵山毎かをんなひんかと
十ノ四五　　大伴家持
丁〳〵ゆきかあたし〳〵あ〳〵にこ〳〵むたつゝ山ハとゝもちゝめたりそれ
四六
いとゝひきとくゝもひてゝ立田山々〳〵こえもこゝもちゝめたりそれ
四七
タさゝれハ一ノ木こえゆくゝ立田やまもゝらんよきねひとゝ
四五六
我ちきハ一ノとひこゆるゆつゝ山たちてとみてもきをそよ

岡本宮天皇舒大御哥　巻九泊瀬朝倉宮天皇トアリ

をゝ〳〵乃山ゝ
八ノ二一　　作者未詳
タさゝれをゝ〳〵乃山に啼鹿乃こゝろひ
いこま山　　同
十ノ四六　　作者未詳
いとゝりやし馬にゝ〳〵おきていゝ〳〵ゆ山井こえ〳〵ゆ
十二ノ二二
君ゝあ〳〵ゝ君つゝとあ〳〵ん
十九ノ五
妹にあをんあ〳〵ハすゝあこいもゝふ山ゝ

再出　九ノ七丁

タさゝれをゝ〳〵乃山ゝ
いこま山　　同

ニラウラ　将基本集

十ノ四六　　作者未詳
いとゝりやし馬にゝ〳〵おきていゝ〳〵ゆ山井こえ〳〵ゆ
十二ノ二二
君ゝあ〳〵ゝ君つゝとあ〳〵ん
十九ノ五
妹にあをんあ〳〵ハすゝあこいもゝふ山ゝ

「タさゝれをひゝ〳〵乃おゝくいゝ〳〵ゆ山こえ〳〵ゆ
よるかの池ゝ
十二ノ十九　　作者未詳
いゝ〳〵ゆよゝ〳〵ゆの池乃ようゝゝも君ゝあ〳〵ん
八ノ廿二　　大和に上〳〵
あ〳〵しの君大和に上〳〵
おゝふひのいそをゝ森のおゝ〳〵あ〳〵ん
大伴四村大嬢
口三ノ十　　作者未詳
ふゝ〳〵ちゝのあ〳〵しの君ハほゝき寸こゝつけやゝ〳〵いゝにをゝや
近江大津宮天智天皇大阿分
おゝ〳〵まろゝ

二ノ十
妹うへもはきて又ゐ〳〵☆大和ある屋に家もあ〳〵もゝを
うちと作里　笠郎女
四ノ九
衣手ゆ衣うちうらふきとゝにあるゝれ我ゝ
みあふち山　作ち未詳
九ノ十二
こゝみむふるゝふち山乃いそ母ゝふれるゝ
十ノ廿六
まてかゝこゝみれふち山ハ久ふもかもゝ家もてまうちちゝん
ゐもて河山ゝ　月
七ノ三二
ゝふふちれ母て川山みたつゝまゝゝゝ人にゝゝゝふ
四ノ九　いこば山ゝ　笠郎女
志ゝゝゝれそゝ山寺乃まちつゝで寺ゝ多ゝ
七ノ廿四　井上　今案ニ式大和国猪上神社アリ是カシカラハ平群郡ナリ井カニト云カ　作ち未詳
寺ゝあゝゝ一ゐたゝにゐハあれを君にゝ
二ノ十二　大原ゝ　明日香清足原宮天皇武天皇
わゝ里に大ゝふゝり大ゝ乃ふるにゝ里
志ゝ寺子

四ノ十七
大ゝ乃こゝいち柒のいつゝゝわゝり
十ノ九二
あゐをゝゝふるにゝ里に妹をおきてわれいを
十六ノ十九　豬名田井池ゝ　月
かつまこゝいけをわきゝるゝちにふゝひけあさゞで

右大和國

安永三年午二月十七日卅終

楫取奥彦

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

東海国　日本紀東海訓　宇美郁美名

伊勢国

一ノ巻十二ノ二二　神風乃いそ乃浜乃真砂なす　伊勢乃
うまれふうふうまれのふうめー云々　仙名未詳
かとおもをるるきみ

二ノ二六　神風や伊勢乃国にもあふ国を　大来皇女
いきよ海乃おきつしら浪なにもかも　行ってきけん兎もあれかし
三ノ三五　　　

十ノ甲
いそより海人乃釣ふねあまのつなでもかくやいせの海も思ふらし
四
いせ乃海も思ふらしちとせもかくやいそのかみ
三ノ三
九ノ七
古たてみ三室乃かそらの磯乃浦にかかりもかしあくらかつかと
十二ノ三五
すくら川八十瀬もとゞろに海もとゞろに神ぞおこえたこえん妻もあるみ
安濃 郡名 大神宮儀式帳云草薙安濃国同
十四ノ十八
くさなぎはあぬのゆふへ行しぬかもあぬのゆふへやはたゝあらむ
大伴家持
六ノ三八
河口乃野 壹志郡
河口乃野へにいちしるしてゐよふ秋も妹うゑしおりはあらむも
風土記云的形浦著此浦地形似的故以為名今已跡絶成口湖也
一ノ九六
ますらをのさつやたてみ立むこいるまとひたてゝへにちはゆと
舍人娘子
七ノ十四
もゝとりのうれとのすゑ乃うつや妻らひたてゝへにちはゆと
仙名未詳

度會郡

十二ノ卅二
うちひさす大河乃へ乃ますらをもこゝひさこあらふいとこゝもかも
同
十三ノ五
五十鈴原 万葉今本五十師の原とあり訛を啓に誤る例に依従ありて
百すゝしろ〳〵ろ大宮ひろ乃ゝとこの宮ゝをたゝえつゝ国神乃
いせよまを思ふ我をしと山うらしをこくたふり
同
くすしろ〳〵ろとなす海もますひろ〳〵ろわれも
ますらをよゝ思ふ妻よゝ思ふこゝをも
ひさす大宮はゝ〳〵乃ますらをにこゝをも
本山のしきみつさかえ秋山の色ふかゝ〳〵とタ日あかゝ〳〵
八天地や日月のともにかぎりなくありこそ
同
山ゝ乃いすゝの河井ゝおよつゝあをる松をもとめつゝも
長田王
一ノ九
山の乃ゝ河井我こそ河井乃風のいをもとめつゝあひつるも
笠麻呂人麻呂之妻

一ノ九 五六せこゝろいつこるくゝん おきつもの
ハノ三五 よりにあひてあゝさかもあゝかくしかも
一ノ九 いさゝれ山の
み吉野をいちこの山をこゝろかも
石上大佐
一ノ九 ふるさとの又えぬくにもとも

志摩国

六ノ九九 こけつ国志摩のあまの〳〵ま
英虞湾
四ノ八八 妹にこひあこや松原こゝろをはせつゝ
寧楽宮天皇聖大御哥
柿本人麻呂
一ノ九 あこや浦に玉のりすゝんをとめらあり
大伴家持

尾張国

三ノ九 ちくら〳〵たつ
熱田
ちくら〳〵たつ
ああちくら
仙をも拝
十三ノ十二 をとめ子ハくもよ水ゆひてあくてふ
人のさてよ

四ノ四三 あこやこいはゝくれるさてよ
六ノ三九 おくれゐて人をあをはゝもてよ
一ノ九 くゝろはくたふしの
たふしの
答志郡
柿本人丸
帝王
丹比屋主
帝王
日本紀万葉集用年魚市之字
神代紀作吾湯市

むそふくもんよひさかたのあまのかはらにこのもんよはすくすくとこふくいはねもはるとあしたるるまでさくらよし

九ノ十四　三河国

みうらのいちはふち波もおもふさてたちすたれ衣ぬれぬとこふに

二見

妹も咏ひろひつるもこれのある二見をゆきかへりなほ帰る

或ときかいはふことのあるあまわらもあまをひろうらむ

春日老

七ノ十四　作者未詳

あめもりこもりにくもりにくもりよ海よ

ちくよ浦　多武

遠江國　万葉集等保都安布美　又等倍多保美
和名抄　止保太阿不三

一ノ七五　引佐野　安智郡

ひくさやにみゆるまつ原入くるとき衣にちをとをしに

十四ノ十五　いおさ細江　引佐郡

さちつあふこいれさ細江のこをはぐくあれをたためてあさ角ものを

十二ノ十六　おけ戸　麁玉郡

あふきくべう竹垣あこめもも妹しもえ系こうれえあやと

十四四　あふきへのけやにあるうつもいをさきたる

きくべくのもざふすみ給さいにいをもふねしまも妹うをどこに

サノ十六　もろはの渡　大郡川相

こくこもろこもろいの海をにへよ海とあひてしあくいへこともりもも

八ノ四九　おほの浦　寧楽宮天皇　聖大御哥

ちちの浦ふもも須うよするあやもこんをろんを名をありふこそころ

十四ノ五
すゝろなる海おかしこにあふる浪つくらいますをたのしく母にきこえひめ
或云まだちやにてこうひめ

富士乃嶺　富士郡

三ノ九七
天地のわかれし時も神さびてするくたゝなはる富士の高嶺天よりふるゆきをけうとみ降る日もかくらひてる月のひかりもええにえにもいやきはてうち時しくて雪はふるけるかくるつきひひをもうんふりよたゝなはる

みぶ

たゝなはる神のいましろにそふる雪のけうとくも降るかも

口

あまのよろづ平安の世をすゝろなるこの国ここちよき雪のゆいてたてるふしのねるおい天そゝといやきはてうちふるゆきのほしまゝとやまをおもすてけちつゝひも

仙もまた

すゝろなる海おかしこにあふる浪つくらいますをたのしく母にきこえひめ

或云まだちやにてこうひめ

富士乃嶺　富士郡

三ノ九七
天地のわかれし時も神さびてするくたゝなはる富士の高嶺天よりふるゆきをけうとみ降る日もかくらひてる月のひかりもええにえにもいやきはてうち時しくて雪はふるけるかくるつきひひをもうんふりよたゝなはる

みぶ

たゝなはる神のいましろにそふる雪のけうとくも降るかも

口

あまのよろづ平安の世をすゝろなるこの国ここちよき雪のゆいてたてるふしのねるおい天そゝといやきはてうちふるゆきのほしまゝとやまをおもすてけちつゝひも

山部赤人

或云あくらくふみをもけやくふるやまも
田児浦
三ノ廿二
ひさこそれやあらめさこそ海大見のさことうしるも
仙をま祥
三ノ四十
おくれゐてこつつあるすはたこそ海へあまあまをもろく
きよらこう浦　高市郡
三ノ廿三
いもろよさうみう浦のもろもろ浦のやまし
まろち心いもなすさる川ゐ郡
まろち心タこえやさていほ浦へすさるかも
志太郡
十四十五
もろよ浦を鈴こく船かよふあたにてらめうもこちめ
焼津　或云駿河国益頭郡焼津神社
三ノ廿一
あへ市　玄倍郡
見いつに音りくうへするうちあつよ
仙をま祥
あへ口上

十四ノ九八
坂越てあつよ田乃もにゐるまつとり
三ケ日里　駿河国坂人ケの中
七ノ七
たちもろみえりやさに父根をて
むくうね口上
たらみけめむくうへいさをもあをて乃母をもあて坂うなくさ

伊豆國
十四五
いづの海にきつも波乃立いくもつきちん
いづよ海あたりくうへのたえつくもつくん
はず或本あるとあれども目録に伊豆国
ハニその後しは為也　一首とあり一首
伊豆ま祢
七ノ九
さささりもよ堀にこてゐる伊豆ま祢かちとる
大伴家持

甲斐国　続日本紀云歌斐

相模國　古事記云佐加牟
和名抄云佐加三

十四ノ六
ちらくものみをみつゝくらしつるかも
或云むさゝびのをゝにたゝくらすれぬくるかけてあをのふくる
よろづきの涙　餘綾郡　今云与呂義訛也　ほ

仙をち未詳

仙をち未詳

十四ノ七
お採哉乃よろづきの涙乃ますみこれまこと

口六
とゝつゝらあしかあるさかみめこそ
あゝらゝ

三ノ四十
ゝふち立あゝかゝ山に和ぬきりきにさらせそあくゝゝみぬ

仙をち未詳

十四ノ五
あゝかゝみをてとこよめにさゝらふ乃ふるもゝつこゝろあんしひもとく

口六
ゝせこ我やまとへやりてまつゝたまあゝらゝ山の松のあおまつ

廿四十四
あゝらゝみやへ山越ていますあハたゞをとゝつゝちぬちん

服於由

口四十
わうやきがいきつくゝゝハあゝらゝみ

十四ノ七
あゝらゝ坂　巻九已足柄坂長谷に東の国の
あゝらゝみさかこみくゝとりち夜のあゝゝゝこハつゝとこちてつるも

廿四十
つゝらゝよこちみゝて神みゝハ

口七
お採哉乃よろづきの涙乃ますみこれまこと

仙をち未詳

口六
とゝつゝらあしかあるさかみめこそ
呂柄　今為足上足下二郡
あゝらゝ

三ノ四十
ゝふち立あゝかゝ山に和ぬきりきにさらせそあくゝゝみぬ

仙をち未詳

十四ノ五
あゝかゝみをてとこよめにさゝらふ乃ふるもゝつこゝろあんしひもとく

口六
ゝせこ我やまとへやりてまつゝたまあゝらゝ山の松のあおまつ

廿四十四
あゝらゝみやへ山越ていますあハたゞをとゝつゝちぬちん

服於由

口四十
わうやきがいきつくゝゝハあゝらゝみ

十四ノ七
あゝらゝ坂　巻九已足柄坂長谷に東の国の
あゝらゝみさかこみくゝとりち夜のあゝゝゝこハつゝとこちてつるも

廿四十
つゝらゝよこちみゝて神みゝハ

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号　寄別6-3-1-4
ガラス使用

廿四七　くめふくせふらむそてめすし我こはく
　　土肥の河内　今も湯河原そて温泉あり
十四七　あしうらおこひよりうちにいつる湯乃よ
　　ま、　今湯匂の川上ふまつ乃と云ふそと
〃　ありよまつ乃小菅のすゝ我あきらさひころもくく
十四八　かけ山
〃十二　あしうらよりうら我うら山のうつよまの乃
　　あきふの乃山
〃　あをの乃あをれの山にひこ毎乃きりたつに
七ノ十五　笹根
十四六　あしうらの笹根のこゝとにたつのそ
　　雨ふりみふれそみくまあやし
　　雨ふるなのひろよりこゝをとまくよ
〃七　あしうらよりおこふの松うよおこふのもゝ書あれや　ひもとふ物乃

十四七　むさしのにくらつくやさすそにもみ
〃　むさしのをくきうれいにしらひをせろにあいそよ
　　仙もち洋

〃十六　たつこゝろかくくし山よこゝろまねとふらいはゝ妻つやそうん　同
〃　みこしの浜　〃
〃六　かまくらよりこゝしの浜のいそくその名うくもゝ
　　こふの流川　〃
〃　まうあこそのたとはゝくしろ舎乃こふの流川に塩こちあんう　同
　　みこら　私名抄云御厨郡御浦
〃廿六　芝自のこゝちさおもふ物つこゝろよあひふ女あくへふれこひやも

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号　寄別6-3-1-4
ガラス使用

（八）
こひしけは神もあはれをしらすやあらん
あさいふにして恋ほす妹に　いろにあすあし
（九）
郡義也乃なまあもろむきかとかくも云ふにしを
（十）
我せこにあふとそんむしの、こけ〳〵ももの時あるものを
たゝれよこ山　多磨郡　玉川の上に桜山村とてふるさとあり玉川のほとり
今を一里をくりつけ山を桜山といふ
宇遲於恵女
廿ノ三九
あふ郡我山ぬにてをそをゝにて　たゝれよこ山
十四ノ七
たま川　ワホ
たま川にはゝすゝくろ〳〵に
楊　こば　楊樹名にあり
（廿五）
たもとれのこばのちりうそふちんんつゝいてあれいいれ
（ノ八）
おほやう〳〵入乃郡
いそまもおちやう〳〵乃いそあつゝひうふあるえそ
埼玉の津　埼玉郡
さゝ紅の波ふをる私乃風をいつゝ綿いたゞもこゝ乳あえそ

（九ノ女）旋汉
さゝ玉乃ふさきぬ池　（ロ）
はらふとあゝ
（ロ）
おうれちゝ井　那賀郡
（ロ）
ゝつくりぬおうにむさゝろちゝ
うちひ武義国分にお也れあるゝ（ロ）
十四ノ八
夏そ引うちひをちゝて尼多れ
十四ノ廿六
あいをろ也をろ四におりるたゝえ

安房國　養老二年に上総国の四郡を割て安房国とす
あいをろ　由也あるゝ
仙名未詳

小埼乃池　（ロ）

上總國　和名鈔云加美豆不佐

海上　海上郡　和名抄宇奈加美

十四ノ三 あつそ引うなかみ　仙そ赤祥

る末田　今郡の望陀　和名未宇古書に八馬末田あり

ワノ九 うまくてよ袖乃さ〻ふのそ多ゝ

〃 うはらくのもろにくりかくたゝ

未詳　殊名娘子をうめる

未詳　今郡の名　和名鈔云周淮　秀はおに子房ふ跡ゝろとゝめゝハ

続日本紀云養老二年割上總国平群安房朝夷長狭四郡置安房国云々

端詞ふ上總国云々と書て安房とゝめれハいまゝ安房を今たぬあ北哥や

九ノ十七 志ゝあゝるあ房につゝゝるあつゝゝろう　すゝよたまふハむふゝけのひゝすゝ

わさもこゝゝろてのすゝるをとゝめゝるのいろくゝけさふものこと

ゝみくたてれハもはこゝみのゝもくゝ人ハおのゝゆくたハゆゝすてよはふ

くにかとふいくゝりぬさゝゝふとゝふるもの君ハたちもちふゝちゝまゝれ

てこふふくにゝざさゝ（ゝゝ人のゝ

てゝ娘そたゝれゝりけゝ

下総國　和名鈔云之毛豆不佐

十四九 ふはるゝゝゝうゝゝもゝ紙につゝふゝもゝ　仙そ赤祥

葛餝　郡　和名加止志加

ワ三 志間　浦　往船　同

ワ九 かつゝゝゝゝまゝ乃浦まゝをこく船乃ふゝ人さゝゝく渡ゝゝゝゝを

あゝるをまゝゝゝゝ詞もゝかつゝゝゝ

葛餝郡　仙そ赤祥

三四八 もゝゝゝてこゝふ

いにゝゝふありゝん人ゝゝ志つゝれ茅とゝかつゝそ　山部赤人

ゝけもゝつゝゝゝまゝのてこふゝゝちをつゝきをゝてとゝきけともゝさ

のゝやもけくゝ有ゝゝんまゝゝゝゝ

みぶ

かふとにゝ人ゝゝまたてゝ夜中にと身ハたふゝすいてゝ逢る

　　石分

雲とうつ人にもつけむうつしうゑもかつしうゑまつるの入石ふすあひくおもひや

　　同

九ノ三四　多う峠あつまゑまにいかしこにそけることの今もそてにおもひ
くるうつしうゑまつるのてこゑうあさざぬみま峠つけてひさそくもに
ハかりきてうみこにもうさハけつすくりすくりをそはうてやけともにけさ
あ冬中につめるいそひこも妹にしらめやともち月のうてるおもとにも
のことをこそたてれそなむしの火に入うことうと入におこくうくよ
まかくれ人のふぬいくゆもいけうぬとのをおにすこうをふしを
て泊のまよさこく渡のおきつきてゆ妹うこそをうこそおもひやるかと
そをきよふしをうけんうこうとおもひやるかと

　　石欽

かつしうゑまつるの外うれをたちあしし水をくけんてこゑしおもひや

十四ノ九　かつしうゑまつるのてこゑおもにようとふまつるてこゑを
かはしうゑまつるてこゑうあるをしうゑおそひよ泊もそうふ

　　同

サノ二一　ちはのぬまこゑてうしはのあるまうれとあやにうちみおきてたうまな
七ノ十五　石そう川泊上うゑおをうすにるハすうけこそハるとせん
十一ノ八　大和乃かうそのうこにいうりおうしいうる人うあもハけうん

　　常陸國

サノサ六　ひうちはしゆうん下をうあう近をもうしてつけて妹にもうせん

　　右歌道ゟ

はくもち　　丹比國人

三ノ三八
ゑうふくあつまよしにこえるやまいさいにあれどもふせのそふよさ
山のあらそもろこしの人はいひつき國人するら
筑波は山をみこととりそくしてこひしみすけするふたすゝをふつゝわこゝろ

又歌

つくそのとよろそよそえはゝそゝそのそえ

九ノ十二　日
右をひくそちの國ふてこふみの筑波山をこまくもりこそあもそう
そあつけさにあせうきこあけお本の相うそふさのゆり峯
のへを雲にすゝふをみ神とやうたすひめの神ともちいひるま
ひて時そふくゝをゐふるつくはのをさやにてゝしていふうし國
のまちゝをにゝかにもめゝ形つそくんゝとひものをとそてゐ
乃ふとそみてそあそふみひくゝあそふふのたのゝさ

又歌

きふよりにいうゝかよいんはくゝのふむゝの人のまそん三日と

同　ちりく北田井　そねのあふそ

ノ十三　日
ゐまおゝ旅のうまゝをおくさもることてえふいをはふちちつくよたのに
ひそりのそ船あふみも秋風にしゝ浜たちぬつくそものよけく
をふふおそけみこひつこうゝうを

又歌

筑波岳のすそそ田井に秋田刈妹うやらんとみちたそふれ

同　耀哥カゞヒト訓

「
筑るみすも山はくふの山ももそつゝにいさもひて
をとめ男のゆきつとひかでふうびに人妻にふれもものゝらんわゝ
妻に人もことゝ山をゝゝはく弥のむゝようをいさめぬらさ
そそふのこいめくゝもあそそことそとそれ

又歌

をの沖にもこちのちちらふりぬれとちるそとわきうつめや
同
ハ九八 旅泊
十四ノ三 つくしのかひくはまよりこぬふねあれとそうみしあやにさかしも
或云たゝちもの　あまさかりきりしも
〃 つくしふるもふるいあをもかあしころにのちさるかと
〃九 つくしのゝ松ろにふねのすきさうてにいきつく君恋いつゝやらさる
〃十 妹うらいやとも廿三遍加里又 こぬひくはま山うくひすのなくをうちきゝてふ
〃 にくはものよかくもあくらしの松のとをとちあしにふるとさゝめえおく
〃 つくしんにてうひにこもるあしちどりんもゝあゝに吾もそおくふ
〃 つくりのの花もころにおつる水うすゐ母うもれともたゝあひふるろ
〃 つくしのをてとこよもふとうつ（す名母うもれともたゝあひふるろ
〃 さころもおをつくしのろの山のさきうすゝえこいこゝそおをとうけおゝあ
〃 をつくはの松ろにつくゝゝあひふるよいさはゝありめをゝ松てんもも
〃 をつくふの志ゐきま木ゝよよたろをのゝゝふをうんさゝよちゝあゝに

サノ二六 あうもてれうすれもちくふつくもの　占部小龍
〃二七 つくもののさゝやるよものゆとこにもうあしけ妹いもぬりゐ
大舎人部千文 二首
〃 梅乃ふる風乃かくはしさつくふの山をこひすあゝめかと
廿五 あしうよ海 和名鈔茨城郡佐賀是ゝ
ひくちるなさうよ海のゐもこゝをひけはたえぬれあとうたえをん
七ノ十五 康署 郡
同
あゝれふり康降よ雨を浴うんすそやゐん、そゝきゐもゐを
大舎人部千文
七ノ二七 あゝれふをかゝゐよ神我いよをつてすあゝこゝさに吾はまにしを
仙をまる拝
九九八 こゝひゝしのゐ井のうこにちゝしもふかゝゐのさゝにさふぬをの
小船をきけてゐもきよをうちもちゝあゝこゝみに

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

みふねこをあとよひてくよひたてゝみれ
あくをゝてこいまろひ亦もをゝむあし
うあくこのそれ津をけゝてゐらこきいふは
　　みふ
海つなのあさちの人はもゝちあんかくらし
　　くゝ川久多部
くゝ川いさゝくあるまゝて志賀みにまうちもゝめをとふうてうこん
　　九ノ部仿此

東山八国
近江　美濃　飛弾　信濃　上野　下野　陸奥
出羽附

北陸七国
若狭　越国　越前　越中　越後　加賀　能登
佐渡附

山陰八国
丹波　丹後　但馬　因幡　伯耆　出雲　石見　隠岐

山陽八国
播磨　美作　備前　備中　備後　安藝　周防　長門

右地名考

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号　寄別6-3-1-4
ガラス使用

東山道 日本紀東山訓也未登乃美知

近江国 古書用淡海訓阿不美

二ノ廿四丁

いさふとりあふみの海をおきてこぐふねのほ
ふのおきかいいやてるふねもまよはすもあ
まよはすもかも

仙予本洋

十三ノ六

あをによしならやまこえてそそるをも楊と
ちりえたちりけまつえたいるうかけさ毛
をとてくるをまちにはゝ文をそそくるをとも
うらめやも

三ノ十八

あをによし久波ちとりうるふけもんもゝしめにいにつゝおもふ日

仙予本洋

七ノ十五

あをによし漢ハやそちいつらにゝ思ゝうる帝見人

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

三ノ十九
いそ海をこぎてこしやまけふもかも清にくもつまふふるく
作者未詳

七ノ二九
あふみぢはこぎうらぐわをふきとほしくもゐにあまのつりぶねおとも
十一ノ八
あふみのうみおきつなみたかしとかもいもがりゆけばこぎでわたらむ
ロ
あふみのうみおきつしまやまおくまでもしるきまでにそのもみぢばも
或云おきつしまやま

あふこのうみおもてこぎわたるふねにいのりおろしてあがこふるきみ
ロ九
あふこのうみをこぎでてながにいのりおろしてあがこふるきみ
十二ノ廿
あふみのうみこぎでてよばひとをるおまつはぢのもみぢをかざしてまつや

志賀郡さゝなみ山　大津たけつ

一ノ十六
ももしきやふるきみやこのひえ山のふもとのかすみ
みことのたゝなはのいやつぎつぎにたえずしあらばまたもきてみむ
つぎねふやましろをおきてあをによしならやまをこえてわれはきぬとも
におもはめやもろ人のいのちもわれもひさにあれといのりつゝ

志賀郡さゝなみ山　柿本人麿

一ノ廿六
ささなみのしがのおほわだよどむとも昔の人にまたもあはめやも
ささなみのしがのからさきさきくあれどまたもあふ人なしに

あふみの国ささなみのおほつに天おしてらしめなむすめろきの
神のことのたゝなはのかしこきみやこおきてあをによしならやまをこえて
きみがゆくおほぢのはてをいつもいつもかみさびたるさかきばやし
きみがゆくみちのくまぐまおしなべてやまかはさはにおさめたまひて

高市古人

ささなみのしがのからさきまたもあはむとおもへやもとな
或云おもひだえつゝ

一ノ十七
いにしへにわれ人おもふあれやささなみのふるきみやこをみればかなしき
ニノ廿五
ささなみの志賀の山越えいにしへの人にわれもや
かくまでにこひつゝあらむささなみの志賀の辛崎さきくあれこそ

置始東人

一ノ三七
はるゝみのおきつなぎさをこぐふねのたづきもしらぬおもひもあるかも
ロ四十一長哥有異之
ささなみの志賀の大わだよどむとも昔の人にまたもあはめやも

柿本人麿歌

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

三ノ十七
てるかいてく おてるもきそ いきるめて こそ 刑部省所名

二ノ九二
のそ今ー ますそしくあへ ますくもくむ もろ

七ノ二四
さてくはのもろ川のあてまへこれるりにく

四ノ十
さてくはのそろつの海はふるろのにめ

二ノ九四
さてるくも
はくはろ乃大山寺へたくあっ心ーー

二ノ九三
第ー海
ろすくーくやこ大見乃大くは毎まちろ

十三ノ七
大見乃ことをとうーこみこれとあうぬるー山

のもやさはをさゆはーーさてろちおさろりのたまろ風

をこつてこみてあくもち乃あ此ろ色に

さてるくのそろれくー海さそくへ又かつろうこもをれくまやそくる

にるけきつ、きそとゆけへやとねよさるをゆ

ぬつるきさちさやゆめきおーていこーいうあつのをんやくきるて

る奇

天はちをるけきこのみむさそくあへ又かろうこむろのかく海

七ノ十五
さてるくへ乃おくくーいにまのれへ

九ノ十三
はくるくのひろ山風の海のけへ

十ノ二七
ろうくにそにこすへひろれ海のあて

或云 こ句あくの歌乃尾句をもろれくー

ひろあくるかと

三ノ十九
岩井へひろれ清にこきはそくおそ

十三ノ五
そくくろ風まそしの国まにすーるのはさ

刑部省所名

二ノ九二
のそ今ー ますそしくあへ ますくもくむ もろ

七ノ二四
さてくはのもろ川のあてまへこれるりにく

四ノ十
さてくはのそろつの海はふるろのにめ

二ノ九四
さてるくも
はくはろ乃大山寺へたくあっ心ーー

二ノ九三
第ー海
ろすくーくやこ大見乃大くは毎まちろ

十三ノ七
大見乃ことをとうーこみこれとあうぬるー山

のもやさはをさゆはーーさてろちおさろりのたまろ風

をこつてこみてあくもち乃あ此ろ色に

さてるくのそろれくー海さそくへ又かつろうこもをれくまやそくる

にるけきつ、きそとゆけへやとねよさるをゆ

ぬつるきさちさやゆめきおーていこーいうあつのをんやくきるて

る奇

天はちをるけきこのみむさそくあへ又かろうこむろのかく海

七ノ十五
さてるくへ乃おくくーいにまのれへ

九ノ十三
はくるくのひろ山風の海のけへ

十ノ二七
ろうくにそにこすへひろれ海のあて

或云 こ句あくの歌乃尾句をもろれくー

ひろあくるかと

三ノ十九
岩井へひろれ清にこきはそくおそ

十三ノ五
そくくろ風まそしの国まにすーるのはさ

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号　寄別6-3-1-4
ガラス使用

乃ゑちそやふるこゑのさてうたなみやあてのあをちとをにふる
ことゆくふねのいそ乃あのすまのあまにみるめかりけん
めさとりむけくえハこえやくあまのはうら山を

日

十七ノ六
まてにてふる〳〵山すさそあのあのうちのやうにおほ山す
あまくさめさとりおきてこゝをもこゝにあふこの海のおきつ浜風
つとゝれくとひとりそわつく妹うゑとふるう
みな

十八ノ五
あまのはらをおてゝこゝれいあてその海乃
日

十九ノ五
ゑゑ妹子にあふ坂山乃はつこすちにに咲いてな恋そするかも
中臣宅守

十五ノ五
ゆきてとこにおほ山を動くまてるつそてをれともあふよもふし
たゝの山 おほうをていたなのふ〳〵にあり
たのふハとにこおほ山のふもとにあり
大伴坂上郎女

六ノ五
ゆふてゝこゝたゝきの山とゝのこゝをすいつれの妻てにいろをもんこゝろ
日

矢橋　栗本郡

七ノ五
あふみのやをりをゝりをゝをゝをゝ

三ノ四一
つくす野にあるほきあふそ名いまし
　　沙弥満誓
廿一ノ九
ふるとうの乃おさ七川ハたえめもこそに
　　遠智　　同郎
七ノ三三
まつもほくそもち比笠原のえかくて人は
　　依羅ノ子　同郎　巻十七ノ狭野方之々二首在同巻ノ三々
十二ノ七七
きふてるほくあさめてこ見ん七乃もそちはふ
てきをくにいりとてそおもふ
をちはこすば
　　つるの浦　湯井弘
三ノ三三
芦へあしたつるおそくふさわ
　　志貴皇子
四ノ二四
志可山ハ
志可山ハこそのはれるるそ
　　つまはくおこみ
志賀つすの浦ハ　小辨
九ノ十六
ふるるのあとのこれとをこそて志賀

二ノ十九
いつこにかわれやとりをもとむるのうちのつゐにこの日それぬる

八ノ二五　いつこ山　伊勢歌
いつこ山ゆつに咲ける萩なれハ見ゝ飽ぬ色をつゐ〳〵ものを

十三ノ七
そゝ〳〵稀ゝあれ共國乃ふるかよりてをとめのもゝ〳〵にいてゝもゝ〳〵のこゝを

あすあしきてゝ山ゝこゝめの山あのけとゝ人つゐみそゝを

かくゝ乃ゐを人いつけとゝんるさ山のあをゝ〳〵山みぬ乃ゝ

大伴家人

六ノ四十　當者野　多度川　多藝郡
むゝ〳〵も人のつゐ乃ゝおい人のわれ

大伴家持

ロ
たゝ一人の海をそよみつゝむたさの雪のつゐに

他を手得

十九ノ三
わさゝしの乃ゝ乃ゐさゝゝくふるを乃いとゝもふ〳〵山をまゝそれふ

ハ

十ノ二五
ゝれもこゝ公立乃かをそあゝゝゝみやに和を〳〵乃ゝ妹につけこそ

柿本人麻呂

二ノ三三
かけまくもゆゝしきかもいそのくもあやにうゝこゝさあれ乃ゝのまゝ乃

もろ〳〵に久〳〵あるかなしかをかこちてさてそのまゝ
袂をわかつこと〳〵ものさへめやすくもあらねばかの
たのみたる人のもとにあとうらいやすてゝ夫の下
たゞ国にさてあるべきことに著

六四ウ
哭るゝはかりにそおもうちわびていもうと

七ウ七
あふことのたゆるをかこつあれゝそあくあるまじき
かるかやの関ならねどもゆくゝものつゝめにそ著

大伴宿祢
家持

優久娘可良乙女

七ウ七
かふくにあはおそきひと人乃うれ著

越路国

久米禅師

二十二
うすくかるもろぬのまこもわりひっはうま人さゝでいるといもをこそ

石川郎女

二ウ
みけくる信濃のまゆこひっぱりしてをハくらしつゝをいまるか

十四ウ十一
信濃路八ケ乃はき尓(銀)刈つゝに皮ふむ

伯耆乃国

人ふみもとゝろもにしふみ乃てこゝろ尓

ちゝまの川 歌

信濃なる千曲の河乃さゝれしもたゞしきをとそ

すゝかあゝ史 伊那の南郡に有

もろぬるゝすゝ乃をゝにこやこもれ

おゝまふ 伯耆郡

中まふにうそとる舟乃こゝろをもはあるそこゝをふにあるすハ

二十五　かくれこもれる
ちはやある神のさくひに

上野國　古書云上毛野
十四ノ十一　碓氷　郡山坂
ひれふりすひの山をこゆるにハせるの
九ノ二六　ひおろとをる碓氷の坂をゑ〳〵に妹ら
十四ノ十二　をこゝろまきうとかゝし〳〵まおたこ乃　入野　多胡郡今有　和名鈔片岡郡に多胡郷
十四ノ十三　たこのよにをろかはつまよ〳〵と
こゝの川　利根郡
十四ノ十三　こゝの川のつゝ波とゝもにさたくとゝろ
ふ

新田山　新田郡

十四ノ十二　ゐのこ山神にハぬさおわにかけのも
十四ノ十六　をゝ〳〵もをゐをにをろ〳〵山のとゝ山乃うに
あそ

十四ノ十三　上にけ乃あそみまを山〳〵うそ山〳〵うそ
十四ノ十六　上つけのあそ山ほゝらゝ神をゐろこもも
小野　寺にハ半度と書或ハ半度せとあれハハせろ乙〳〵は国小せやゝ〳〵
十四ノ十三　上にけ乃をとゝの〳〵山のつゝにもこゝ
ゝ或云をゝたとりゝ又せふハあゝもゝ
作業

上つけのさゝ〳〵ゐゝをゝゝゝ
上毛にをゝさの田おゐゝゐゝゐたゝ
上にけ乃さゝおゝゝ楊ゝゐはゐ〳〵あ
真桑　嶌　生ら〳〵ものお
ようけまゝゐ〳〵ゐゝゐゝゐゝゐゝ

西十三　いるくよめま

上　ほけのいるくの法よりおほめまよそにうく夜ハ々くそまて

この思ふ江

上つけのうほやゝめまたいそおつくひゝハめれつてあとふうめまそ

伊勢海　江いるくそひ口やさうのそ

いるほろよまそしのそまうくに称もころにおくふうとまて

いるくろのそしのくう系わうきめそつまうくうとやそうまとめ

思ふにいるくろのそおわうつまうくうとやたのととめまし

上つけのいゝほのいるくろの法ふ一一

いゝほろのやゝのそにうのーのあくふろのそとさてのとちみて

いるくよに称ふうそよわつにハ也えそるほとこにようてそ

いゝほうをふくロふうあうとつてあうこひもしーはふうふうまう

上つけのいゝほのふろにふるようきれけるとうそめいふいゝのあつを

くるれのふ

上つけのくろのねうおくふそうかうにやさうくふ

下野国　古書云下毛野

あしかう山

十四十　後世にそうひふこうまる和名抄あしかう山あり

いるこの山

古　さらつけのうかも此山のこうくのれまろくくのときあよふふの花

あそのうくいるくよいくふそまそ

下つけのあそおかそくよいくふそまそ

大津市役所

十八ノ九
草香江のうらの菰をあみてうそ〳〵めづらすのろぶの神のことのは
代々も天皇つきて〳〵くる君の御代〳〵をかぞへつゝ
山川をひろしあつことたてまつることうまつることうれしもあやし大君のところをいはひのたまひ
くすしもたのし〳〵あゝとおもひて
國ばらのうち〳〵乃小男る山にくもあをしもあやめひく天地の神あひつるひすめろき乃
かしこ〳〵ことを畏みにあれいをれば國ゆたけくむものもみな
お母ゐ〳〵てとよみのをとものをてまつるうたのむけのまく〳〵おいも
めをてはこもをぶくひてうひにをそをひ
にそふとしうれしくいうてそひて大使乃
めでとおひもちて〳〵にて海やまへいろのもれっ
もる大君の一にそもふめかてりこハセ〳〵と

のをといにしつよ〳〵おをつにおうつるおやの
人おやおやたつことゝそ人おやおやたのすたいまた
いひつることゝおつゝをあつゝそうにとりおにて
もをさあをうゆのまりに大君乃
あゝをいやたてまひゝまつる大君乃
たふとし（畏し）
万葉
ゆきゝをおくるおもひ大君乃ことのさをきゝたまはり
（或云ことのさをおもひ）
大とと乃とゆつ神ゆや乃おこにをいこそあれ
すあろきの時代さうえんとあつまるうちに
十六ノ十二
あさ〳〵山うけつゝ〳〵ゆる己の井のあそ乃ん
十四ノ十五
あひつよのおもとさとおもあいふもゝをひにをんをひもゝれいかよ

安積山　安積郡
金清水　同郡
他を参洋
に
は

十二ノ三九　思城山　思城殿

いそき山たこえきぬらん雨雲の　浪乃こゑ
　　笠郎女
　　行方知
三ノ四一
うちわたすのまのくろ松いとはやも
　　他戸王薨
あらしふくらん

七ノ三二
こちかぜのあまくもらすもあしひきの
十四ノ十五
あてらの乃神にぬさをおくりつつも
口十六
うちわたすのあてらまもりはてしらず
　　口
かとり　とあるうの誤
口十五
つくるふなびとやすたにこもりくの
　　久米浦師
あづま
テ十二
東人のさきもりにゆくおのこをば
　　草壁皇子
ははそ乃母
四ノ十八
夜にくる麻を刈り干し
山上憶良

五ノ廿六
あまざかるひなにいつとをすまいりこえにくり
　　他戸王薨
十三ノ九九
いきてあらばまたも見んとうらなくに
十四ノ十七
あつまぢにてこの山ふかくもあるかなと
口廿二
東海乃てこのよいねず敷ふすらん
　　大伴坂上郎女
十七ノ十八
あまざかるひなにある我をたづねむと
　　口
あまさかるひなにも月はあれどもや
十八ノ十七
あかねさす日かげにあへる
十八ノ廿五
うら悲事を告げつ
廿ノ十九
東路のつまわれゆくと

北陸國 紀訓久留我乃美知 又久奴我乃美知

若狭國 和名云和加佐

四ノ五十二 みち乃し山

かにくふ人いふとも乃ちも乃の山の浪もあれもきこえこ

大伴家持

(ロ)浪を山のちもなしといふ一てそあるこゝろの海

七ノ十六 若狭ふるこゝ乃海の淡海いもとかてこれとあうみも

(ロ)

越乃國

九ノ十九 こゝ一後ゆきふる山をこえんにハいそ

中臣宅守

(ロ)

十ノ二十一 かしこゝもの一すあをこゝもちゆ

大伴家持

十一ノ十四 そふ比ろ越乃君しかこそ柳う

十九ノ十七 娘子をゝま一こ国一よまれも我ゐとゝ

(ロ)三八 きれさるこゝにをゝをすゝゝたち

大伴坂上郎女

十八ノ十七 かゝるおのゝをるにふつゝにおもをもてこゝ

こゝ乃海

十二ノ九六 わき白こゝもやゝもゝ越の海乃こゝ

十六ノ九六 はまゆこゝの海にゝつくるもゝぐまでバわゝゐ毛にをも

越中國　和名古之乃美知乃久尓

敦賀　郡名和名都留我古記用角鹿字賀都奴

多佐浦　或敦賀郡田結神社

二ノ卅四　こゝも海のつゞきなれハ湊ゆく舟にさゝ櫂あるをてらしあつまれハわらはもをミなもゆけハますらをのたゆひうつ浦とあるをやくけゆく舟ならにあれハひとりしてこゝろなくさてろしのるにまことたるもてすきかけてをゝのいやをゝとしまもる

あゐ

二ノ卅五　こゝも海たゆひの浦を掩にしてそれハ

仙予集村

十四ノ三　たゆひさをとゝめてもちわるいつもつゝもうらしまの

気飯乃浦　口不紀云額有の甲人乗一舩泊于越國筒飯浦故号甚処曰角鹿也口

十二ノ四十　うらもなみ海うよするしらなみにしほちくくにゝ咲うすつゝこゝおとゝもるも

かつる又かひる式敦賀郡鹿蒜神社つゝ山とゝ云是也今もかつる山つゝ乃里かつる渕あり

いつもつの坂　口延式五幡神社

大伴家持

越中國　和名古之乃美知乃尓加

十八ノ十　かつるもゝあをゝんまいつもつゝみなに神ふれ鈴をしおとをは、

大山　毋生気

十二ノ四五　ゝゆふつる高の大山ハるくいつれのほにかゝ雲をゝしも

仙予集洋　大津坂上郎女

大伴家持

十七ノ十五　うらゝ中もゝつ浮沖を旅ゆきもそゝしらめ妹をこゝろよたつまりてあまをれハ

礪波山　礪波郡関

十九ノ十八　さけそつゝおゝ路ゝかきー山にやうをたゝつはさふゆきうらゝーゑのさくれハいやーさゝ

ひとりおときけハさゝも哭とあれをそこゝろふるこゝ山とゝこえやをそてあけゝーい松のさ枝にやゝ

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号　寄別6-3-1-4

ガラス使用

ゐめるもめくさそにおそとよめる

百歌

ゆえよしきけばさびしもわがそでにいもありとてふる山にいもあるものを

十六ノ十七 ゆきこもりしばふきとぢしわがやどにあるじもとはぬ雪のふかさを

十七ノ四八 雄神川 ゐ

をかこし川とれるものふゆをとものこあまつまとるとたてしし

十八ノ三六 やふるこの里 ゐ

百ふるしの里にやとろうつる山と妹につげつや

十九ノ十 船之歌 射水ゐ

ちゑにきけばもるけーいこつ川船こぎつーうたふ舟人

二十ノ三四 大伴家持

いこつ川いもをあれるむてけみるさうう山ハ春花乃さけるさうう

に秋のあれか田つるはにいてうちてしふりさけられい祢こそ

二十一ノ四二 沼谷 こ山ゐ

たふとき山こめこうほーかこむすめ神のすそこ此山のそみてたのさ

きけあるそれに船あさたによるこーこ沼水みおさたこちこーこ乃

いやふたゆきなくいにーゆきてにうけてこあもも

二十二ノ四 ゐ

もふてた乃さそれもあそにみするなハいやこくにいあーおもわも

もつーけふさこ山に時るの舟のこをーさ此ハ来にそり

二十三ノ四二 かさそふこ山にかんさひてたてるつれなみえもおやーとそハ

にもきしわを乃そを教ゆみあつてそうそれハくゆ

つまりていこつ海さうかみちにいてもちてやうそられいあの風

いこくーふけハこふと にハ吹たこまよみせすをハさこくあー

かれやあをよと毎ハ入んこくかちよ船こるーそこをーもあやにともし

みをあをいつーあそふ此うそ我すあうさの国ふれハこことちうこ

わうれふハおそれこる君ハあれとをたるねこのたゆふ祢ハふをのたふ

国立国会図書館　タイトル『千歌』 請求記号 寄別6-3-1-4

ガラス使用

東山をうちおほふこころそこもとはるゝいとゝおもしろくおぼえてもゝ
にうつりゆくをおもひつゞけていふはをのこ
ゐる
秋をこゝにもうとくおもひ手ふれぬ
十二ノ二九 旋沈
をふ谷のこゝろ山にわすれ
十九ノ廿五 こゝのをゝのもゝにこもりゐるかとおぼゆ
廿九五 をふ谷坂さして
十七ノ十九
一こもるえていきおもうれをみたの法をねなにより
十九ノ廿五 こゝのをゝのもゝにこもりゐるかとおぼゆ
廿九五 をふ谷坂さして
大僧都雅
十七ノ十九 秋をこゝにもうとくおもひ手ふれぬ
左京大夫顕輔
をふ谷のこゝろ山にわすれ二上山に月をこそみれ
皇太后宮大夫俊成女

二ふた山にこもれるおもゝき木々もちりぬる風にもろをも
三笠野 曰景
うら風さえにこほりゐるひさしきみねのしら雪
十七四四 曰 まろこえの阪 ひこの江 すその山
大夫 秋とのゝしかどぞこゑもさはがしき
一あれは山こゑ川とをうつゝひゞきあはせて夜
のさまをひろこいそゝ一ひきあはせて夜
おつるひの風こゑのわれいそれ
らをれとゝいさふひてたゝ一もあまさにいわつそゝてタうにふる
そゝめうの波とうつはく敷かをたに
てあふことをもやすきとをくるまはふれもをもむせんにそひわうてえまて
みはをゝてさるゝつるたゝはあけむ
ゝるあひたれゝるをこゝろおきふのことにもあにつげもい
のうゐうゐのふるゆをいうすとをゝ
ゝつ二の山とひこえてをゝくいにをとうゝそゝれ

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

つくれをてくれ此そこにおれいいみすへのたとまもをもらにんにいや
さこもえつゝ思ひこひいきうきあまうけうへくるあるあるあやとあるの
をそとこれもふこるこもをもつをするそてちやふるみの社にて
ふ浜をつにとうそへことのおそあうまつはふをとめくいめにはく
らくふこうをれうつたうハまてえの浜やさてしつふーとれ
ひみの(衍)めにるそたちのるこひたもとふうもあーそのまてこみるな
をそうひもきみふもありつちくあへハくつだもとふくあへ
七日はこちハるあやもきふへのえをこ海もこころにふこひそようとそいま
につけつる

ゐふ

(四六)
ゐふをおたうとをにするえこうまのにうくあるまめくりを一にる
(四七)
ここおをもこみのふ海そうてあるまつたるをいめにつはつも
(四七)
まうこうをひにてあれもさ山のをちふとああはえ
(四七)
へにハやまふとるくすうの山すうなくのこ
布勢水海浦 注云此海者在射水郡
旧江村也

ちどり うふひ川 をふのさ浦 (四)

十七ノ四六
とみふのあをそうおさのあるふとちんやまふ
ちふりれふ浜のあをそにようするをふさうふ
えの出浜ふそうおひ川さうき脇とに教川ちうあさく
甲さうれとそうもあるにやしふをは海ふみうけすふてあ
をふぐにこまをまばあさにハあちもくにいさ
めれふさまいこへくもこれさやけさうふ
のやさハめう村ふあをかうひいやとーのもにありふくーあ
そりしくをこれうと

ふゐ

ふをお海のあきうーーー流あうかうひいやとーのっにうつきぬえ
こそへ 大伴やを
(九七)
ふるこハ吟てちうにをひうハみそそちうとあーひさの山ふ
とやにもおとくまうまふとうものハうをぬにそこ
をーもうちこひーをさふとちるひくんもをぬにそこ
ちもうれてたうさういてこ

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

ちられもいふつ川みふとのすとをゆふさにかつふあさまし
ては喜よひかそれとともしきれこつすゑ
さそにおもつ波もゝもるたゆもかくまり
ゐなきさともちてうらくいしふをおろうち
いぬきふこ乃神ふりかしあとひてわこそあけはをつのさねふ
ちりまひるひるきに八芦吟さきはたれ波たちてもみてもこれあろう
これもあるあれはろ八とこちのはにそさてハものはうにかと
かくもゐつまれてをそこそこそれもあまつめたゆ白あつめや

多敬

あ波乃よをらるも屋よおあのさもつきそこたこん清水浪ひを

大伴家持

十九ウ
おほみそちまちをのこよおのれのきけさそひをこあきてめんや
らむふこふをの海にふあつこふあまろいかけいこをあそれハをつの海
にまあたふひさたるひめふ落ふこ学て浪なくふ波さそさちくく
ふ意ハまそれおとくみのこにあさそそめやもくしこそいやとしみもにま

笠のちけさきうにれの奈比もとうつきあま
しつをみみと

多敬

落ふこ乃もみさうにくしこそ海こそたこんま手にちめそ

十八ウ六
いうにきるふをお海そもこうたくにろうこ
ロセてはいつしあけむふをの海お海を
ロ多ふこにやてめにこあふせお海をこそ
ロふをおこをひてしこそハをてしきれ

大伴家持

ロ八あしのロ乃ふをお浦まの落ふこにそてしきうすちしもも

或云ちとき子

ロ九たこおさき浦

はる

くみこの浦このくれちけよちとうきすきれるさまあハはてをめやも

内舎人渡座

十九ノ六二　たこてをうこのそこ[illegible]にをふちおうをかけてゐうんえ人のあ

日六四　いけうにおとひてこうをたこれ浦にさけるあえて一ノ夜一ぬ一一

十八ノ七　大伴家持
をふのうえこそてもとうひものすにこもあくつま浦ふあうに

日九　おうらにそおえそひしをふの浦のありそめひおさき浦　田邑福麻呂

日八　たこひめおさきの浦こそめうりこれとあうみうう　日

泳さふるたれをめの袖こそれともあうまいうにこれセ

日　たこひめの浦をこうてけのひハたれしくあえくいひつたにむ　大伴家持

日九　たこひえ乃浦をこうかちもたもうのうえをこうをとをてあるつや　日

十七ノ四　婦負川　婦負郡　日野
めひ川のうき風こにかをけしハナとものをハ都川たちうう

日八　めのおやおすうさおしふる雪にやとうえみしうあ　大伴家持

日四九　鸕坂川　日照
うけう川うる風おふしぬあうきのあうきおにうう

十七ノ三九　立山　注云此山有在新河郡也
あまけうるひるにあうにこうの中くめちことくしハしもうに
あれもふしもさいふやはともすめうこのうしうさいます　みひ川のそ
みこち山ふのこうにをうりおえそおいをうる　かうひ川の浅き瀬に釈よ
ひとにたつうう乃見ひすうえやありかのひいやとしのまにえをもいまうえぬ人にもつけむ
ふうさけこはよろつ代のかうひくうえ
うるおこもあのこもきこそこのしうぞ

右家

たち山にふうおける雪我とこうつにこもあうまおうくしう
ひうひの川の風きうくおうあのたやをとうをとうくありかのひこん
こうこ

大伴家

ちかきさとにこゝろある あふうら ゆふにおいでる ふもとの
こゝろあるそこまでこゝろさたちやまみそのあしこゝとも もろくにこゝろ
いふりおさていにて（ゆあきにけも はこゝかもいそのかむはひ
たまさはるいくさにりんたちてゆそこゝろ ふるこゝおちたきろきてゐかおちにおちそこゝろ
されいそのたふりくそのちんもしぬにくものひそくま
ゆくゆのそもさやけくさろ川よていひつまるこん川（たえすい
あゐ
たちやまにふりおけきろ乃いこゝろにえてこゝろいそのおそ
あちこゝろこゝろひ川のたえあゝとくこゝろ
大伴家持

十七ノ四九　延槻川（ハヒツキ）　四首

たちやまのこそゝくゝもゝひつきおゝ川のひそうせあゞそつうすも

作者未詳

十六ノ二九　大野

大野路はちみちおちもゆくゝろをいひろゝん

大伴家持

信濃の須

都乃海そあめの須そもさくゝもゝ

四九　おこの海　四首

おこの海人のつりする舟はゝ今こそあ

大伴家持

四五　おこれ海のおそろくゝにあをたちれふ

四六　あゆの風いたくふくゝおこれあまの

四七　それとゝもくゝふくらゝおこれえそに妻よひやゝたつさ小舟

田子浦そ

十八ノ六　おこれ海にふそゝをおそりこむ

四八　浜そはおこれ海そにる夏のまひあさをしにて

おこれ海そのそやひあさをしにてもやたつ八今そ漕ふる

大伴家持

十八ノ九　英遠海

あそれ海にふそゝたちゝさそくあをいでも

四九　辟田川（サキタ）

十九ノ二　あゝたそのこゝゆさかりうちさそれは笑にそふ笑の山下とそ海

たゝちりきしきの川乃氷にあめそゝ
ふ〳〵ゞもさへつゝさひやけはめさ
に係ておこそたる衣のすそしめれも

五段

紅葉衣にちり〳〵さゝれ田川たゆるともなく
ものはにあめ〳〵もる秋はさほ田河物
ハりうをそ染るゑ

口ニ

いも係の

あ〳〵のきみ心なこゝそやさかはる年ふ
すゑハ大夫のちよろつゝ国ハ加茂もこゝ
かちさゆらさゝれ人めともみとそひ
くやふし秋つをハもゝそゆ白ゆ(サキ)ゝそゝにあそや足ありてみらて
をふこたてゝゝめりの小松もやゝにい
いきとゆるんのうちなおそひ〳〵ゝひろ〳〵ゆく〳〵ゆま
やゝちにうゝらあそすゑそゝめうこと
ゆゝ白ゆ乃きの

五段

やゝ尾乃ゝゆもたうをゆふすゑうゝなそうゝかゝ〳〵ゝとゝ

口

十九ウ七
いそ松やゝ秋ゝゝゝ

加賀國　和名云弘仁十四年割越前國二郡置之

能登國　續日本紀云養老二年割越中國之羽咋能登鳳至珠洲四郡始置能登國

十ノ三六
珠洲の海に汐たる海人のいさりせんとや我のひろはん

仙名未詳

十七ノ四九　後拾
いでさらば立てかへりなんとふのうら人いそぐとにはあらねど

大伴家持

羽咋の海　志乎羽咋郡志乎神社

四九
志乎羽咋の海にたてるしるしはもくひ杭なれやもとうちもかへる

仙名未詳

鏡石川　鳳至郡

四
妹にあはず久しくなりぬれば鏡の川の清き瀬を見つ

珠洲海　珠洲郡

四
すゞし海を見むとしてこゝに来れば長浜の濱よ見てうれしき

仙名未詳

十六ノ九八
ぱたそやくさまさはりやにまあらやいて馬もまあらやいつこゆわれ

四九
もゝそのくさそのやちにそゝきをのおとすらそゝきをのおとすらん

加賀　和名云能登郡加嶋加之万

四九九
かしまなるのつくゑの島もあをそこをいひつゞけやまとの川にあらひすゝぎ

つくゑにたてゝ　にまうつやめつこのまみみにまうつやめ

大伴家持

十七ノ五丁

かきもちうくもちゝ泊さてうく母のうちえまるくおあも

山陰國　紀曰山陰道背面云ゝ
訓曽登毛乃美知
丹波國　和名太迩波
大江山　桑田郡

たにもちの大江の山えされうくたゝむものゝもゝろくに

紙未詳

丹後國　和名云太迩波乃美知乃之利
スミノエ
墨江

續日本紀養六和銅六年四月割丹波国五郡始置丹後国

紙未詳

もゝひえうくあるゝ時にすゝのゝ泊のなにおあもいにこ一のことそお母もゝ水のゝの浦もゝの児ゝ乃七日まてもおにもまてそうもゝ一くもゝそこゝえんになもゝろにいこもゝむうゝてあひうゝさゝ

ここゝたにいうゝわうゝこの弟のゝ故の中ゝ一乃たゝもゝうゝるゝことのにたつさりふたゝもゝうゝて先もゝえ死ゝせそゝ一てそゝ世のゝ中乃それうゝ人おもゝさもゝこゝに乃ゝそゝかうゝこゝはゝ一くゝおゝにゝうゝてちはゝにゝことゝものゝ一ひあすのゝことゝれ八母もゝうんといひけゝ八妹ういつらくここゝうゝに又ゝうゝきて久ゝめゝごとあそんとゝもそこゝうゝにゝおゝ一ことゝをすゝこのゝふかゝうゝきてうゝれとおゝこゝて里ゝえれゝも里ゝをゝもゝこゝうゝのそてあやゝ一ゝとそゝこゝにおゝうゝくい一ゝもいてゝこゝとをのゝ八ゝをゝに垣ゝもゝくゝ衣ゝもゝけゝやゝやゝけゝうゝおゝこゝとゝい一ゝ八あゝんゝゝもゝおゝすゝこゝひゝくゝにゝゝまゝのゝかゝうゝもゝいてゝくゝうゝ世一ゝふゝたゝ川ゝめれゝ八ゝえゝけゝゝもゝさゝひゝすゝ乃一ゝてゝたゝちゝにゝこゝうゝけゝ一ゝあゝめゝうゝ一ゝはゝてゝ

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

かきつ　はなも　けぬやふく　いまさくらこそ
にくる水の江入浦乃ふぢ波の
　　名高
さてまつにすむつるをつるまでちとせ

但馬國　和名云太知乃

因幡國　和名伊奈八
いらこの浦江の國にあり
一十五
うちそをもこれをもあまもふるやいこう浦乃もかづます

能登國

こてう
うつせこそ多ををりこし沼にぬれいこう浦の毛蟲かもとそ

麻績王

伯耆國　和名云波々岐

山雲國　　門部王

三ノ廿六　おゝ北ものかそゝのちとうかふるゆふ
四ノ十一　おゝのうしのをゆひのつれなきものに
九ノ五二　おほなゐにとこと叫ことおゝみ海をそうにう乃ほる

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

多久崎　金根郡

をとめらがあさけたく海士の一もとの梅もそかをや仙女澤

石見國　那賀云以波美

二十八　角井浦　三ら角山

ふるえのほつのくゝわを海ちかみとゝそらめのうらやうちはふくともよゝかさゝろうらにまつあをもみつゝ

おひをけてにまつ浪あをそよ上にのもゝ風そよめのまはるなのもかうらくれはなのやそくに

もゝ妹をあのおそ一妹をあのおそ一たふとにまろかつらミすれやいやとほ母里はさうぬそ一たふ

山をこえ里ぬるあのひ一おえそこあみて人妹う門えんをひけ出

柿本人丸

二十九　幸の浜　後の山　石ら山

つぬさうふえのあのことはく一かの海あるいくりにそみるかあるあ

里そにそ玉藻はおふる玉もふすなのひさまをこゝをあゝこのふるて

ふをいくさもあるおいくはくもあ一まそ浦のやうにおとひつかうすれやと大母のやうこゝ山のとみちなふのち

里みまうのにいもう神そやにもそえすつまこゝ山のやうよ

里ひさ月のをし一ふれやくろひくれ八天津ふ入まし一めれ

ますらをおとふるあれもまそこの衣のえの神八とあうてめれめ

石ら山

まそ鏡のあるそ我もまそみてそいもうあうをそ玉にぬくれ

和山におつるまそちハそほ一くふあちそうそ妹があうそむ

路山

かと山のいもみまけるを聞とも

隠岐国　和名於岐

山陽国　紀曰山陽為影面云々
訓可解登毛
播磨国　和名云波里萬　古事記用針間字
羽石　那閇ト　浦門ト　おと潟　　梅本人麻呂
二ノ十六
いそとしひのあらしよおとに入る日にやこさおほんふの浦うこぞ
天ぢうるひふみもちゐもゑれハ明石のせとうやまとゆくこゝろ
巻十五おれのあるうこゝろ
門部王
四ノ九
こゝろをハあらしれ浦よたけるやのわにそもゆるもふこゝろく

六ノ十七
あらし潟ふきひのこちをあらそふハちどりの　山部赤人
七ノ十九
あはぢにこきめぐむとやつとも明石の瀬戸ハあらしのこゝろ
　梅本人麻呂
二ノ十五
あしたよ葦辺のうにすむちどりあまの
巻十五もゝしの葦辺の浦にすむ
六ノ十七
風すこし　山部赤人
あしの葉にいるこよおほこの浦乃
そさのうこをよこう〳〵もゐいれ浦をこう〳〵もろ〳〵人
かこひこゑもろ〳〵浦をこう〳〵
　石部
おきつかいそへ〳〵おこそつけこいそをすかし葦辺の鶴

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号　寄別6-3-1-4
ガラス使用

以下各歌著
かえ古鴻 郡

三ノ十五
いるこのもりをうてになくつれハんえて
くくこてやまくる
山ア赤人

いるこ毛 卯南郡ゝ続日本紀ニハ
播广国賀古郡と立

六ノ十七
ニワ毛毛也乃海ちおーるさあゝ夜のけ
仙をホ洋

七ノ十六
いるゝらやハりるめくーー夫、てふひろ
或云ちゝまハこるめくーー 巻ニ二十二大十七千云々レツノイハヤ 卯南那ニ在リ
門
かにーて奈ゝんいるこ乃清ア乃
大神乃実

九ノ廿二
おくれて我もやこひんちもの〳〵妙
ニワ毛毛乃あくかーりゝ叫ハあれと
廿ノ十二
ニワ毛毛乃あくかーりゝ叫ハあれと
十二ノ二九
いるこ川
あすゝいるこ乃川のいてくいるそ
仙をホ洋

三ノ廿四
名くりーさいるこよ海のおきろ沿ち一にう
いるこつる
十五ノ六
やきもこゝかうたこゝもをいるこつまふ
ロくこの浦てゝあちそ古
六ノ十八
あちさはゐ妹うめそばこ手てきまくこ乃
つくれ毛にさ花ぬきばくれハあもちのめーもすきぬ
いるこつまかーにの浦のーまのもゝちぐ
えまもまもちにふりきあこまさもる海のとくくまこ乃浦
のさくくこ届しおうすそのそわるたひのけふみ
るゝ
ゐ原ゝかーにの浦にあそうまする鶴にしもあれやゐるいはくむ
名ゝくれやこまれハこもまとくのある玉藻毛の母
風ふけハ浪ゝくこんさまもらみにてこくれゆく
仙をホ洋

こゝち毛の海
楊を人 番号

十五ノ七
ひろこそ海に出でうち日向たえ乙にこそあらめ

ロセ
家望

ロセ
いもこ岡かみにこそまつれ海ゆあらばあつ姫もあつまくに

十七七
ひぢさはるぎ 淫世ひぢさはるぎ ロ
きてよそ毎いせ一いさふとうひちを死おそ我ふうる

九ノ九七
たゆきよ山 橘を慶めり子
多ゆきの山おをのくの橘なりえ乙まろ一い見をそめえ乙

美作国 和名抄云美乃万佐加 続日本紀云和銅六年割備前国六郡始置美作国

吉備国 和名抄云備前和名岐比乃美知乃久知

四ノ九五
いにしへ乃人おし乃ふもひてるきびの海やもり すつふめさふたそ乙

丹生女王

六ノ九四
大和ちかきびの海こぎをりてゆかはつくしの児島

大伴坂人

十一ノ二六
うしまその浜のきよきを浪のごとよをそしもあらま

牛窓

十五ノ十二
玉の浦
物さはいもとまにまく後ろこの浦の波ゆ立つなゆめ

ロ
ろ風にわろうちえたもみあひ

ロ
ゆけはおきぐにかぢ浦もろこぎ漕ぎ

ハちえ乃ふれいはやもこにあ
あろんあ乙れ海に来とあてうきまをそ

きハいさうするあまのとまの小舟のりつらにけりあらときみ

よ海もちえれいあ乙にいたつるとえ乙ふ人

とかこもあ乙ひにわるのふつさひやもたそ

あつまつよんふるくやとはやくもてそんむとそふ
おそふつふこととそくたちきみのそおそにそつ
とそめて浪のようういそをこつてふることを
つこよたまきおもふいにとに妹みやらむ
いをてくかーーさはうひおそれいとそれとも
つるかと

あそお

ふれ庵のおそうーーむひまつれおそみそ
みさくいゆうあはてとそれ見ことをもふ
ぬはまつ毎月 夜あはめくーむの浦とあ

十五ノ六 日浦

十五ノ七 月よこそ井芝をてよこそ祢宜乃いそ海の社

七ノ九二 こもろと山 海中小立と云宝戸名

むらくはみこそろどーいおもろくしてむうーあるかも

くろかと山 当國にて

十ノ九 ぬはまつ毎月ふこそ物こそそ山もと

十ノ七 めそこ毎よくろふこ山のやまよすみにこそ

備中国 和名云吉備乃美知乃太加

祢宜 或云備中国小田郡神島神社

備後国 未詳 或云吉備乃美知乃之利

涼津 郡名

十ノ七 うちみそとふうつそふ山そ毎くもそうめ

風速浦

十五ウ
わたつみにいまるかそへ風もやの
浦八おきつ
に寄たるひろ
大伴旅人

勅浦　仙覚云以備後国世羅郡所在勅張乃勅浦
二ノ九三
名ばかりうつくしの浦のむろの木
ウ
うちよりこえてあひみし妹はいまもあやも
仙覚未詳

七ノ十四
ちはやぶるかみとをうたにわく時ろの
ウ十六
あまおふねもそれとうたはれそこにともの浦とに浪たてそ
ウ
よくもそよりうらむもまたくをものるにまさもとめこれを

安藝国

周防国　古事記用周芳　和名抄云須波宇

十五ウ十五
大浦乃門　大浦郷
これやこのみにもかくにもあふことの
ウ十四
かたき大浦　ウ
にくくもあらぬ大浦をうらくしと
ウ
思ひつつぬるよしもなき浦をおそきあ
ウ
まの浦　玖珂郡
ウ
玉藻かるあまをとめとあるぬ
ウ
大舟にかぢとりたてこぎ出なば
ウ十五
妹がかぢをとりてこぎ出なむ浦をはやみ
ウ
あの浦
ウ十四
いつしかもこの夕しほにあはまほし
ウ
あまの浦のあはしや妹にあれやあらぬ
二ノ三三
もこの浦を
いもひ浦
十五ノ十五
あま人のかつらきやまにゐるくもの
ウ
```

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用
```

旧
[illegible]

四ノ九六
すはまのいそもとこそんとハたものけうくをよあくきそよを

長門国　古書　定戸　和名云奈加度

六ノ九七
おくとふるおきつうら浪おきまつく

十五ノ十二
[illegible]

臣曽倍對馬

十二ノ八
[illegible]

[illegible]

[illegible]

南海六國　西海九國

紀伊　筑紫　豊後　二嶋

淡路　筑前　薩摩　壹岐

阿波　筑後　日向　對馬

讃岐　肥前　大隅

伊豫　肥後

土佐　豊前

右十七箇国所考

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号　寄別6-3-1-4

ガラス使用

南海国 紀訓美奈 血乃美知
紀伊ノ国 古書木国是ハ神代紀ニ樹種植ル神所坐国故也
元明天皇ノ御時国ノ字ヲ二字ニ定ラレシ時為紀伊

額田姫王

一ノ十
きみ国の山こえて柘ゆきをりけむいたりかもとも
仙を歩詳

九ノ九
こも乃国のむろ〳〵ふもとゆもて海とりあそぶ
七ノ十九 ちゝ出山 名草郡
ちゝ出山こゆたにゝ有々ず妻恋ゆきつゝもわれは
お保乃浦 口訣ヵ
九ノ九
大あらにはきこえとゆくらお保乃浦乃竹をゆ
玉津嶋 続日本紀巻九云至海部郡玉津嶋頃宮云々
七ノ九
玉川にさらす手作さらさらに何そこの児のここだかなしき
口
たてるつゝなそこゆけくも我はもゝ〳〵なにを玉津嶋見
九ノ廿二
玉つゝまいそ波間ゆ乃まもこにもみるめをふ姉もふれそん

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

ヤノニテアリソコモマシテ思フカ玉ノ浦ノ云々

九十 おくつきのいもにあふさきひとをもかもうしにあふさきひとをもかも 日

わかの浦 あら礒こゝも並続日本紀巻九詔曰登山望海此間最好不労遠行足以遊覧故改弱濱名為明光浦云々あら礒浜也

六十二 山部赤人

八重波のよせくるたひに大王のうしはきいますみけの浜をおもはえんとも

やすみしゝわこ大王のうしはきいますみけの浜をおもはえんとも

おきつ風さわにふくへにしきたつ浪をさへてたつ時をまちて

みとりなす松のしつえに

あさ日さしあふりてをれはおきつ風にしきをなせる浪をさへてたつ

七十七 あらしふく海人ともこゝろあらなみの浦のなきをおもはえんとも 日

わかの浦にしほみちくれはかたをなみあしへをさしてたつ鶴かなき

ナニテ此六 衣まてもさわにふくへにしきをなせる浪をさへてたつ時をまちて

みとりなす松のしつえに

八十七 わかの浦のうつくしきをみんとて

二十七 あらしふく海人ともこゝろあらなみの浦のなきをおもはえんとも

わかの浦にしほみちくれはかたをなみあしへをさしてたつ鶴かなき

十ノ四 あらし浪 おのあら礒に日暮れ

きよき国のうつくしき浪のよるへをみんとて

一ノ十二 聖代 日高郡 出野濱 岸

君か代とわかるゝいはほ苔むすまてとしるしおきてふ

二十二 岩代の浜松かえをひきむすひまさきくあらはまた帰りみん

中皇女命

いはしろの岸の松かえをひきむすひまさきくあらはまた帰りみん

二ノ廿二 岩代の浜松かえをひきむすひまさきくあらはまた帰りみん

こゝろたくそいつともなくいはしろの岸の松かえをひきむすひまさきくあらはまた帰りみん

或云これをのうつくしきをみんとて

二ノ廿三 浪こゆる いはしろの小松かうれをみこけんも

日

七ノ廿一 こゝろ浪あらそふもみえぬ浪もちぬいつこありりんすらんかふーに

三十八　さゝぬ乃やまもち
　くもゐるまであめつちに
　さやけき月の
四十一　さやまだに　月
四十二　秋風乃さむさ有まさりを
　　紙子
四十三　さゝの葉に
　　山路の人
　　柿本人麻呂
　　紙子
四十四　さゝ原や
　　風乃さやけき
　　月もとゞまれ
　　紙子
四十五　浦とこぐ
　　きりの海
　　紙子
四十六　きりこめし
　　山もさやかに
　　月乃出
　　紙子
四十七　思ひ出て
　　くるしき人乃
　　ためしにも
　　紙子
四十八　くるしくも
　　ふりくる雨乃
　　ながめより
　　紙子
四十九　いにしへの
　　ふりにし事を
　　おもふにも
　　紙子
五十　妹こふる
　　涙しなくは
　　紙子
五十一　きりこめし
　　山もさやかに
　　月出て
　　紙子
五十二　きりこめし
　　山もさやかに
　　月出て
　　紙子
五十三　思ひ出て
　　くるしき人乃
　　ためしにも
　　紙子
五十四　思ひ出て
　　くるしき時乃
　　なぐさめに
　　紙子
五十五　くるしくも
　　ふりくる雨乃
　　ながめより
　　紙子
五十六　いにしへの
　　ふりにし事を
　　おもふにも
　　紙子
五十七　妹こふる
　　涙しなくは
　　紙子

五十八　藻刈舟
　　おきこぎ
　　いづる
　　紙子
一ノ廿四　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ廿五　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ廿六　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ廿七　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ廿八　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ廿九　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ三十　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ三十一　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ三十二　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ三十三　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ三十四　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ三十五　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ三十六　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ三十七　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ三十八　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ三十九　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ四十　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ四十一　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ四十二　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ四十三　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ四十四　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ四十五　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ四十六　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ四十七　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ四十八　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ四十九　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ五十　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ五十一　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ五十二　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ五十三　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ五十四　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ五十五　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ五十六　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ五十七　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ五十八　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ五十九　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ六十　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ六十一　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ六十二　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ六十三　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ六十四　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ六十五　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ六十六　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ六十七　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ六十八　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ六十九　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ七十　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ七十一　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ七十二　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ七十三　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ七十四　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ七十五　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ七十六　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ七十七　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ七十八　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ七十九　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ八十　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ八十一　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ八十二　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ八十三　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ八十四　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ八十五　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ八十六　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ八十七　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ八十八　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ八十九　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ九十　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ九十一　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ九十二　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ九十三　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ九十四　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ九十五　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ九十六　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ九十七　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ九十八　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ九十九　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章
一ノ百　あまとぶ
　　雁乃
　　玉章

一ノ廿四　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ廿五　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ廿六　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ廿七　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ廿八　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ廿九　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ三十　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ三十一　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ三十二　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ三十三　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ三十四　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ三十五　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ三十六　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ三十七　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ三十八　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ三十九　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ四十　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ四十一　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ四十二　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ四十三　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ四十四　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ四十五　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ四十六　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ四十七　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ四十八　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ四十九　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ五十　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ五十一　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ五十二　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ五十三　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ五十四　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ五十五　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ五十六　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ五十七　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ五十八　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ五十九　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ六十　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ六十一　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ六十二　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ六十三　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ六十四　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ六十五　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ六十六　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ六十七　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ六十八　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ六十九　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ七十　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ七十一　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ七十二　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ七十三　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ七十四　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ七十五　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ七十六　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ七十七　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ七十八　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ七十九　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ八十　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ八十一　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ八十二　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ八十三　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ八十四　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ八十五　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ八十六　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ八十七　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ八十八　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ八十九　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ九十　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ九十一　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ九十二　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ九十三　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ九十四　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ九十五　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ九十六　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ九十七　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ九十八　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ九十九　あまとぶ　雁乃　玉章
一ノ百　あまとぶ　雁乃　玉章

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号　寄別6-3-1-4
ガラス使用

よろづなへわうを乃つるゝひきたに一はを乃山を妹とハゝば

小田部

三ノ廿二 やのそてよ乃をるみを乃山をぬさにたむけてわれ乃ゆくなり

七ノ十七 なゝみ山にゝもゝ山むらつる妹乃山こゝろもゝすゝやをうら枯わたる

日十八 うら枯むきれハおつれさみ田乃いもを乃山にゝ雨ふるなゆめ

日十九 妹にこひうらさえゆけハせみ山の妹にをすてゝあるこゝろゝ

日 雲妹ゝにわつゝゆけハいとゝくもゝ乃山

日 人ゝ〳〵ハ毋ゝめづらてあるとよ〳〵さて川の一乃いもとも乃山

日 妹ゝあるもゝかくゝ日にこゝろもゝ我にゝをそこゝろもすゝを

七ノ廿三 あゝはおもひすゝるゝ神のにをゝ〳〵ゝ

九ノ九 せみ山にとゝちゝて〳〵神乃山乃山みとゝちハゝもちゝむ

四ノ七三 すゝろゝまいてゝ毋〳〵乃まにとものゝふ

つゝ〳〵はそゝ天とゝやかゝみをようゝあきゝ

をよゝきちに入たちすゝち山こゝもゝんゝ男ハゝとゝちハ乃ちゝふゝ

むつまゝきをハゝとゝはゝゝ多秋旅をよすかと思つてゝえハあゝ

あゝとゝはゝかゝハゝ〳〵をゝもゝちゝふゝもゝをゝゝゝんゝ

またゝ〳〵おゝもゝとゝハちゝひゝ〳〵せたゝをゝゝゝゝ

ゝとゝゝゝんゝゝゝをゝゝゝむすゝをゝゝゝ

ゝ乃

あゝれゝてゝ立つゝあゝすゝハゝみ山にあゝゝゝ

知セゝゝあゝゝゝもゝとゝゝおひやゝゝゝ

十二ノ廿六 きゝよゝにの湯にゝるゝゝあゝゝひゝゝゝ

山越て引〳〵君いつゝまゝさゝんと 二ト下器

七ノ十九 あゝゝゝゝゝいゝゝ乃山の内ゝ〳〵ゝゝゝ

七ノ卅九 乃ゝゝるの海

むゝ〳〵さゝゝよゝゝるの海のまゝゝこゝちに神ゝゝゝれゝ〳〵ゝゝゝゝん

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4

ガラス使用

回甲
むらさきの名にしおふ海乃あまをそのいそ
十ノ三六
きてみくしげ乃名にしおふ海のそこ
回甲
深みるの海のなひきこ深めこそ
をすなてよし山
七ノ十九
あしひきの山乃もみちは
回
白浜
もゝくさ乃百しきの大宮人乃
回廿
いもうとを見むをひろみて我ハ
九ノ八
回
かしこきこと乃あやにかしこき
回
やすみしゝ我大君乃
白浜
もゝくさ乃八十乃島人をそかりこん
三ノ卅
回
こふてよ海人はあまたもこれ
つまよとも
弐名草郡麻津比賣神社あり 和名鈔同郡津麻郷あり
式名妻社にあるつまよりもこれ
九ノ九
きてよくにとなりすかなるとも妻のとりも
或云つまごまのにも妻といひおゝ
すさみ入江 式在田郡 須佐神社あり
十一ノ三六
あちれすゝしもきこ乃入江にあちそ雲あり
十二ノ二五
大浜
あしひき乃あそこもとゝろもふ乃
回
ふはひの浦 或人云在紀国
回甲
吹風吹波乃浦ゝあふ人ハいもとあこそ
回
大島ふ山 紀国ゝ
七ノ九
大島ふ山乃すこかゝをのりさてふまをてわらふ
老九 裏作ゝ
おも山にまつたる川
回
室乃海
十三ノ二三
紀の国はむろのうらにおる舟にさらるゝ
大船乃あるものゝてにおるにきふまれ
ふるえをたにきてふハ乃りふっこゝろをも
なをひきはゝるゝ里人のやきのほとゝ

さくりあけさう　四巻ふうたぐさ　たぐさ　まるち
まん人　くさ　も　と　つも　て　も
十三ノ二六　もろ人　浦　情　ふも　在
宝　さ　乃　そ　の　後　ち　ま　乃　後　ち　手　治　に　ぬ　れ　ふ　ら　も
十二ノ二五　云　能　神代紀小竹野三能保　ことハ　生ち　陸奥にもあり
は　ち　す　ま　ち　久　ま　ち　ま　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
或云　いすゝしの心

四九　風早乃三保乃浦廻乃　ゆ　し　ら　ま　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

阿波国

讃岐国 和名抄 奴岐 佐ミ

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

まつ〳〵ゐてもむこれも

　　石谷

名ものにかくれときこゑ〳〵つゝ国ゆるせ海人乃釣舟

阿波国

六ノ帙
まゑのとまきのにこゑるあはの山かけてこく舟乃
十二ノ帙六
波まより　出入のあはのゆきにまよこそ

六十六　　笠　金村
ゐそうみすこの無漏の須
ゐそうみすこ乃　赤漏ゐそ　松ほの浦に朝ふなに玉藻かり
ほくゐふねにとゐやうりこは人をとゝあるとはきけとえこにゐら
むすめおれハますゝをのんハゐにたらやあ乃忍ひたらみす

たゝとゐれいでこゑる舟うちもゝ波そゝくとも

　　石谷

玉藻かるあまをとめらもこにゐんと舟さすこの無漏の須にこゑる

九十三　　小野
こゝてふ八十の湊乃小舟こゝれとあふ

讃岐国　和名抄　奴岐
佐ミ岑山　嶋

ニ十九一
玉ゝすゝさゝなきの国ハくにゝゝゝこゝたゝ
ときゝ天地日月ゝとにくゐゐもむ乃波面ゝつきて遊ぶ中ゆる
ゝゐ面ゝはくゐゐこゝゝれゝゐにあるゝれハゝゐ
波ゝゐ在ゝこれゝゐゝ波さゝくゝゝれゝゐゝ海をゝゝみゆゝ舟乃

柿本人丸

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号　寄別6-3-1-4
ガラス使用

かちりをりてをちこち乃濱のあさなぎたいをつくしてそれハ浦のとまやをけぶり漏つゝをのまろにうらにこゝろふかき君ゝ家をハやそしまもほこの外にもゝ〳〵ましゝんはきたやうらゝ

ゐ

高もあゝはつゝそたゞやま〳〵さゝなみ山のいつ乃こゝろしゝ湯ハさゝふおきろ浦なるありそをそふたつ乃松とゞまりてあをれ君ゝと

伊豫國 和名伊与

三ノ九八 熟田津（にきたツ） いさにハ乃ゐ

すめろきよきみ乃みことのさきまもれおほあれこそあれ乃ことを皇山やまとゝ國ゝこゝろをいくよそのいにしへ

山部赤人

さたハ乃ゐにそゝして欲しめひこゝものつゝこもり江ゝおもゝ浪ゝおもゝひつゝたゝりあるゝ浪ゝおもゝひつゝたゝりあるゝよりあるゝ浪ゝおもゝひつゝたゝりあるゝ浪ゝおもゝひつゝたゝりあるゝ浪ゝおもゝひつゝたゝ

大海乃祖於小海乎者厭奈礼也百長人登為久尓

西海國

筑紫

三ノ卅二
たゝなひの原はく〳〵の松を多尓つけていまさへきてまつあらむ
加茂女王

四ノ九五
はく〳〵毎いそ〳〵とこゝろはやるあふ事なき身乃ものうさ
大伴旅人

口廿八
こゝにありてはく〳〵いつこゝろ安川山のうふ〳〵しき〳〵
作者未詳

紀伊國

九ノ二三
もろ〳〵におもはやるかとそ〳〵やたちつゝにおもひやりつゝにまてとこゝろ
十二ノ四十
はく〳〵ちとせあるそ乃もゝ歳とも乃ふ
口四二
あるく〳〵つゝの方をいてゝはく〳〵ゐもとすゝ一ふく
川原虫麻呂

七ノ九
父母をそゝひてまつはく〳〵ふるゝ国ゆとりてくる国に
若麻績部羊

口廿四
箱崎一に乃もりる毎乃いつゝもはか〳〵まりてゐにつもる
大田部荒耳

口廿八
あをつちや神をいのりてさろをあきつゝ
御方吉根

口四十
いりろにハあゝふみとゝすゝゝみをつゝけしも
国妻振部皆女

口
我せこ波つゝ〳〵ありてうれてゝ芽ハこゝろ安ふ〳〵あやにうと祢も
大伴家持

口六
すゝろ尓ゐ乃このくにゝあひつゝの国ハあゝとゝろあひつゝの

香椎 糟屋郡

六十二
いさごとと ひかしのよるれん白之乃神垣
小弁左

日
時つ風吹てなりぬかしひるこそ風ひ
宇努男人

日
秋かりに 雁こそ鳴て 来往沼あれ
石川郎女

二十七 志加久 日延
志加乃あるへめりと思ふきいとゝ毎ふこそ
大伴百代

四ノ二六
いのちもて 頼りそをつくみたらひこそ
姫主兼澤

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4

ガラス使用

七ノ三 志つ女海人乃塩やく煙風をいたみたなひの浦て山にたなひく

十一ノ二四 志つ女海人乃塩やく煙風をいたみたなひの浦て山にたなひく

口三七 志かのあまの煙やきてやく塩乃かつきをも詠するも

十二ノ四六 志つ女のあまのつりにともをする伊予の中山をも詠するも

口三七 志つ女海人の袖に刈ほすてふ名にしおはゝ逢事もあれかし

十五ノ七 志つ女のあまのひろひも尚すや塩のかつきをも詠するも

口 志つ女にいさりする海人家人はやもちこんにあつまりをるを

口六 ゆふにまさるつる志つ女海よあさりつゝもなきくらすらん

口十九 志つ女海にいさりするあまはわれ海ならなくに

十六ノ五 あま志つ女にいさりするかと

口二六 大舟にをも引うへかつくともをつくしあまをにうさあるもやも

口 志つ女山

口二五 志つ女山いさふきうそ笠碓らるよすもやらみ山海

口 あま志つ女海をすくなみ

口 あま志つ女の塩やく煙風をいたみたなひく雲と見るまで

口 白雲乃神おろしに立そひて志つ女山をこえ行

口 あま志つ女のあまのつりこハやらみ海をすくなみ

口 おつ志つ女かまとの山ハ雨つゝみ海たゝそこくもれこあゝを

金乃浜 武胸形郡 称徳紀筑前国宇形郡大領云々 造金崎船頼也

七ノ廿五 ちはやふる金乃浜をすくなみとや八こゝを過ぬ人の

芝の津 和名二宗形郡小荒大荒ホノヽ有是カ

十二ノ四 白雲乃神おろしに立そひて芝津乃浜にやとりするかを

口 志つ女あまのつりするをあさたゝ手こそ

口四二 あゝつの海ゆうめまよりいそひるあんもやうつれのこと

十七ノ七 あゝつのこと見ひらきハあれといつれの海ら志津乃稲足

土師稲足

十五ノ十九 秋片ふるあゝつの海にうすき張ますらを

大伴坂上郎女

六ノ三 ちふもちまくふ立あれ神こそハえろはをとめ

山とあひくも雲あれ立ちつゝあひとりをる

大伴坂人

やたの野 夜須郡

四ノ十五
名くさ山かすみ一帯の田や北空にひとつのすむなり一にく

笛井大成

城山 下坐郡

四ノ廿九
くさはな山をハさひしくもわかるゝ秋の日

大律百代

五ノ十五
梅乃谷ちくさいにくもるくもけきあふ山もうす緑

佐々木律

十ノ四
蝉々秋きそふ山乃初雪にみねふもとの

水芝乃家 下座郡

七ノ廿一
夫まてひとりぬる一夜の名れ

十ノ四
秋風の日にくもみけもるまお園乃木

四ノ四六
一ノ
十ノ廿五
水芝乃家を吹かへる象を吹かへる

六ノ廿四
すゝきおこおとる秋やそれそれうまれ

大律振人

同

五ノ六
おく乃山雪うつもりてるもみぢくおそ風に

大律百代

四ノ二六
おとてあをおしいく大やふるこ谷乃もり乃秋一もゝし

大律振人

六ノ二
山乃家にふくあ一たつハわゝとくいもにこふをあ時くふく

大律坂之郎女

八ノ四
今もかと大やま山にわれおそれと

佐々木律

十ノ四五
いちくさおれの為ハふくに大堪乃もりたゝり

大律振人

六ノ二四
大和路のきてひこゝをまてやう

佐々木律

八ノ四
をこゝ一一秋きねまてハくもあきてかへにこむ

芝乃堪 野山川

八ノ四
引てあ一きて海をくれハ

十ノ五
あ一さ山こすえことくあれそうハちのたれそ妹の為

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4

ガラス使用

七ノ十七 旋頭 引津

梓弓引津のつるむをそにあいてめやもを
そ妹
十ノ十七
梓ゆし引津の一つるむをそのをゆくさそにあそめるろと

山ゆ引津亭船泊作哥ひとつ有

十五ノ十二 かやの

そのをゆくさそにあれやかやの山一にさとをしかと
こほしてふ海 水茎の名北海にも筑紫
十ノ十八 にもあり
おとつ夜ゆ浦にさく浪乃
かしこと毎も 和名抄筑前国志摩郡韓良
十五ノ九 此寄船許也有許ハ計也
かしこ毎もこのこと浪しぬひあれとも
ロ十七 恋ふけはおもろに浪しきこそぬひしつふし
かしこ乃海 景の
十五ノ十六
おきろより三百しろ〳〵こうち出こ
ロ

筑後国 和名筑紫乃三知乃久知之里

肥前国 和名比乃三知乃久知郡名

松浦

山上憶良

九ノ十四
とりとめもなくあまつちりみまそて
仙をまほ

ロ十五
海原乃沖ゆ来寄れとかのれ
ロ
行舟をおくりていこふまいほりこゝ津
七ノ十二
ゆふくもゐたにこゝろもとをゝもむ松浦さよ姫
十二ノ七
あまくたる神乃こゝろもあやしかもとも
ロ

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4
ガラス使用

五ノ廿七
松浦河乃ひろうあまをとめ
二
こたつ人まつらの川にわかるゝ
ハ
わかるゝ松浦乃川乃河波の
ゝにしもいてゝ
ハ
まつら川七瀬共ともにもろ
ハ
松浦川うら乃をとめ
松浦乃こゝ
海
三
君をまつ松浦のこゝろをあら
十五四三
ゝ
暁波毎そけむ松浦乃海
ゝ
五ノ九
玉島川 浦
二九一
玉つ川かみ小家ありれゝ
二九二
松浦なる玉島河にあそつるとたつ
二九三
松浦川玉乃浦にたつ妹ゝ
二九四
人皆よそらんまつゝめもをこそ
ひれふる山 松浦山
二九五
松浦海ゝ
ゝ
山ゝ
良
山ゝ
二九六
ゝ山ゝそのゝ
ゝ
国つゝん

二九四
ゝ
ひれふる人まつさよ姫ゝ
ひれふる山乃名
能登半洋
二九五
山のゝにひれをゝふるもの
二九六
ゝにきて国にハまつらびさよ姫乃
ひれふる山
三ノ卌三 王
三ノ卌九
あまをとめきてみるやゝ松浦海
能登半洋
きてこゝろけ 杵島郡
あまをとめきてみるやゝ妹乃ゝまを
ゝ
肥後国 和名抄乃美知乃之利
水雪 菊池郡 華北の野坂
三ノ十四
きてかゝとゝまをたゝみてくゝあやし
ゝ
あゝ小乃ゝ夜ふけゝゝあおゝてゝ

長田王

豊前国　和名止与久迩乃　美知乃久知

香春　田河郡

九ノ廿五
春国乃うはるかわきくひもとにいつりをれかはるともきつ
鮫ノ山　梅枝首人

三ノ廿六
あつまうたひきこよ国乃かくこ山乃そ　ひるめノかこひくんくと
多治女王

一四五
大君にまつろふやから雲の国乃うへつ
一四六
雲の国の境の山の石門こそかたれふるき
一四七
きくま川淀　七隈
七ノ二九
雲の国乃きくま川淀一乃ますらをの
十五ノ三三
雲おれきくま乃淀雲
一四二
雲の国のきくま川水淀しそこに男まちよ〳〵はさてもあはふそう
一四三
きくま川沈
十六ノ九八
雲国乃きくま川沈る菅みそ
一四四
つもとや妹かこと神ぬれそもむ

豊後国　和名止与久迩乃　美知乃之利　是名

九ノ九七
あふきうら八雲をこひむおなしうら
うた
一
ゆふつく日てるもかともあほ
一
中山　和名鈔に速水郡田市とあり田ハ由の誤カ
七ノ二三
ちとあくうもりみかこを中山いもふきもし後又こん
十六ノ二
あとひ出る時ハすくるこ雲の中山
一
くくこ山　風土紀小垂
十一ノ八
くくこ山中ゆる雲ハほうる雲ハこもるし雲ハこもむおもひ
一
くくるし山の淀け国に在と
九ノ十二
ゆきそこうあもひつちて拙一国我刈こを馬めむくくるし山の淀

国立国会図書館　タイトル『千歌』　請求記号　寄別6-3-1-4
ガラス使用

薩摩国

勢度 和名出水郡

二ノ十五
もや人乃さつまをとこ我をきみと
六ノ廿二
はや人ぬさのいそ辺も許かるよ

大伴旅人

日向国 和名比宇加 宇八年ノ誤カ

大隅国 和名於保須美

壹岐国 日本紀一万葉集云由岐和名同

十九ノ二五
ろくしまの小嶋のさきの竹島を
ゆく〳〵見れあてもなきかも

十九ノ二六
にいめのふなとたそ〳〵ちにもあれめる君

あるの

十九ノ二四
いもと野のあさちに至る時の名
いはゝたにやとりする君か人のいつ

對馬 続紀に津嶋と有 和名都之万

一ノ十八
〳〵舟乃つゝはあさとりもそなる

十九ノ七
はゝそ山もみたるゝあらるふりの

あさぢ

三野王 系譜未詳

は
46

十九ノ九六
こゝろみのもるゝ〳〵ねはうち山ぢ あのにぐひふくり

竹葉浦

十九ノ九七
たゞきみこゝろ我こゝろもとまるこゝやまと

十九ノ九七
たゞ〳〵れのうへまもりてそかつらきたちのこゝかの

對馬娘子玉槻

十九ノ九七
そかまもりもちひ〳〵こゝそてゐん思ひ浦の波毎もとゝもとまるも

十九ノ九七
たゞまさりう〳〵こゝまるこれる幷のやし〳〵ほ乃うを

大養忌寸麻呂

にあをふるかも

妾永四乙未年三月三日永弟終

妾序

12
46

国立国会図書館　　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『千歌』　請求記号 寄別6-3-1-4

ガラス使用